

第四回

若山牧水みなかみ紀行短歌大会

高校生以下の部 作品集

高校生以下の部

入賞・入選作品

【高校生以下の部・題詠】 最優秀賞【】 一首

すくつてもすべりおちてく手のお湯の残していった確かなぬくもり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡田 明日香

【高校生以下の部・自由題】
最優秀賞【一首】

棚と棚隙間にそつと目を入れる暗闇の中未知の世界

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 林 和希

【高校生以下の部・題詠】 優秀賞】 二一首

みなかみ湯たくさんある湯湯湯湯湯湯みなかみの湯は気持ちいい湯

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗

一口目ためらいながら湯葉を食べ私の口は紅葉のよう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 須江 暖

【高校生以下の部・自由題】 優秀賞】 二一首

あの山にこだまするのか鳴き声は夏を知らせる蝉たちの声

山口県光市立岩田小学校 6年 山口 宙輝

恋みくじ同い年の子さけるべし恨んでやるぞ東照宮殿

群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン

【高校生以下の部・題詠 選者賞・伊藤一彦選】一首

立ち上る湯気越しに見る動物が露天風呂にて人となりけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 望愛

【高校生以下の部・題詠 選者賞・小島なお選】一首

湯けむりで顔は見えずともそこにいる君の表情考えながら

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 琉衣

【高校生以下の部・自由題 選者賞・伊藤一彦選】一首

雪積る山を見てみて思うたは今宵はスノボーすべるで候そろう

群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 好誠

【高校生以下の部・自由題 選者賞・小島なお選】一首

君の背を三階窓から見つめてるふりむく顔を桜がおおう

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥

【高校生以下の部・題詠 入選】 二十一首

冬の湯に落ちては消える粉雪はいずれ消えゆく思い出のよう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 百葉

ゆぶねにねうつるじぶんとにらめっこなんかいやつてもひきわけなんだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 寺島 ひ花

楽しみは太陽の下で運動し体中から湯気が出るとき

長野県塩尻市立塩尻中学校 3年 風間 唯花

コロナ禍で行動範囲限られて思い出してる足湯のぬくみ

群馬県立沼田女子高等学校 2年 生方 令奈

水風呂に挑んでみたが一秒ですぐ湯に戻る完全敗北

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那

夏の夜は冷めた湯船がちょうどいい静かにねむるおいだきの文字

群馬県立桐生女子高等学校 2年 西巻 美咲

あいたたた足先入れては引っこめるあたたかい湯がぐさぐさ刺さる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 竹田 知紗

我が未来映してみせよ湯の鏡教えてみせよ真の心

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 咲樹

朝起きてお湯が出るまでの数分間テレビの前で静かに待機

群馬県立桐生女子高等学校 2年 八木 祐希南

地図上の湯揉みの渦は僕に問う大移動したゲルマン人を

群馬県高崎商科大学附属高等学校 2年 尾関 愛未

湯をわかしふくろをあけてかやく入れできあがるまでなにをしよう

群馬県立利根実業高等学校 1年 栗原 直樹

道の駅足湯に入って一息だ何もなくても思い出だ

群馬県立利根実業高等学校 1年 東 聖也

豆腐から蝶のようにひらひらと湯ばがたくさんできあがる

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 琉生

大切な君と一緒にいるときの心はまるで湯のようだ

群馬県立利根実業高等学校 1年 小岸 相夢

湯けむりを寒そうにしてつかもうとこれからも母笑っていてね

群馬県立利根実業高等学校 1年 井口 玲桜

ふと見ると紅葉は色づき湯におちてかすかに冬が歩きはじめた

群馬県立利根実業高等学校 2年 齋藤 美紗希

曾祖父の思い出の味にお湯を入れ思い出語るカップラーメン

群馬県立利根実業高等学校 2年 柴山 みゆ

冬の朝ふと気づけば川に湯気さむいさむいと川の呼吸

群馬県立利根実業高等学校 3年 上保 麻紘

湯に浸かりのぼせ倒れる石階段二度と来るかと言いつつまた来る

群馬県立沼田高校 1年 小野 陽向

寒い日の湯船に浮かぶ柚の実が僕をいつまでも上がらせない

群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗

【高校生以下の部・自由題 入選】二十首

日光の燃えるもみじに囲まれて大吉引いた秋の思い出

群馬県立桐生女子高等学校 2年 木村 結衣

たたみのへやしうじのあなを見上げたらあまの川見えた小さく見えた

山口県下松市立中村小学校 4年 福岡 蒼生

空見上げ白き雪が降りし時今年の思い出結晶に映る

群馬県立沼田高校 2年 小野 佑馬

好きな人私といっしょになにかしてるそのつづきはみられないんだ

長野県塩尻市立塩尻東小学校 6年 宮川 綾華

おもかげが今も消えずに流れていく声も匂いも新品のように

群馬県立利根実業高等学校 3年 堤 梨乃

今日もいい明日はもつといいかもな毎日ずっといいがある

長野県塩尻市立塩尻東小学校 5年 山本 理恵

露天風呂肩までつかり外を見る森の中の動物のよう

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 翔太

山の中消えゆく朱あかき鳥の羽心踊ったパラグライダー

群馬県みなかみ町立月夜野中学校 2年 林 那津

橋の上私を照らす夕暮れ時アイス片手に寂しさを知る

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山田 ころこ

江戸村であいさつされて返事する語尾につけちゃうごさるの言葉

群馬県立桐生女子高等学校 2年 原子 真奈

伊香保でも草津でもない特別な自分専用我が家温泉

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真里奈

寒い朝秋風吹けば散っていく昨日覚えた英単語達

群馬県立桐生女子高等学校 2年 前原 百花

ウエイトの練習始めて2カ月ちよい二十キロはもう空気

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 空

未来見て今の自分を考える大沼おの・小沼この見れば明日あすも変わる

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 愛斗

枯れ葉落ち何もなくなるとも次があるその木と共に大きくなろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野人 まな

思い出を語らいながら友とおでん今この時もいつかは思い出

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 優里華

足集まるテーブルの下場所取りで足けり足けり逃げ弟

群馬県立利根実業高等学校 3年 狩野 凛々香

木の上に登るボールは数知れず葉が散る時季に収穫ときだ

群馬県立沼田高校 1年 高橋 和詩

「一生」の言葉はとても重いけどそのときだけの軽い思い

群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗

変わりゆく赤黄緑の感情が激しさを増す秋の紅葉

群馬県立沼田高校 2年 長谷川 耀汰

◆ 選者紹介

伊藤 一彦(いとう かずひこ)



昭和十八年(1943)宮崎県生まれ。「心の花」選者。読売文学賞、迢空賞、齋藤茂吉短歌文学賞などを受賞。現在、牧水の生誕地宮崎県日向市の若山牧水記念文学館館長、宮崎県立図書館名誉館長、宮崎県立看護大学客員教授。歌集に『海号の歌』、『微笑の歌』、『月の夜声』、『光の庭』、『待ち時間』などのほか、『若山牧水―その親和力を読む』、『牧水の心を旅する』、『いざ行かむ、まだ見ぬ山へ』、『歌が照らす』などがある。

小島 なお(こじま なお)



昭和六十一年(1986)東京生まれ。歌人である母小島ゆかりの手伝いをしていうちに短歌に興味を持ち、青山学院高等部在学中から日経花壇に投稿し、2004年に最年少で角川短歌賞受賞。現在、「NHK短歌」選者。コスモス短歌会所属。同人誌「cocoon」編集委員。その他、現代短歌新人賞、駿河梅花文学賞受賞。歌集に『乱反射』、『サリンジャーは死んでしまった』などがある。

高校生以下の部
【題詠】
「湯」
作品集

536人
628首

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- 熱いお湯つかれば心あたたまる笑顔いっぱい笑顔いっぱい
 みなかみ町立月夜野中学校 1年 高橋 桜加
- 露天風呂浮ぶ満月仰ぎ見る湯けむりの中ちっぽけな我
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 新井 柗善
- 我が町の湯気の立ち出る温泉の写る月見てただ服を着る
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 凌真
- みなかみの絶景見ながらつかる湯は体温め心温め
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 石川 明依
- 温湯はなにがなんでもいつてみたい
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 黒岩 大晃
- 湯起には一度いききたいスキのために
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 黒岩 大晃
- 湯上がりのほてった体風に当て今日一日楽しかったな
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我
- 一日の汚れを流すなごむ湯のアロマの香りに疲れがとれる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我
- 群馬県温泉の町湯畑や他にもあるよ湯めぐりできる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我
- 猿たちよ湯舟につかるその体真っ赤に染まる日やけのように
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 平井 月南
- 部活後につかる湯船のあたたかさ至福の時間気持ちよし
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 晃輔
- 疲れたらみなかみの湯でひとやすみ自然豊かな露天風呂かな
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 鈴木 愛梨
- 湯につかりまてんの星みあげればみなかみ町の絶景うかぶ
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 篠田 美空
- カップ麺お湯をそそいで待つ時間短いようで長く感じる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 小林 朔
- シユワシユワと音をたてた炭酸も夏の暑さで湯に変わる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 茉友那
- いい風呂に足をはこんでいやすされるかまでつかるポカポカする湯
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 涼
- くせのない肌によさしいみなかみの歴史あふれる湯の温かさ
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 中村 柚嘉
- 文人に愛されていた自然あり情緒あふれ必湯みなかみ
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 中村 柚嘉
- 夏の夜みなかみの湯につかり冷風感じる谷川の風
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 矢野 夏希
- 湯こえたる茶柱立って良い気分ちよつと口にして休あたたまる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 今井 快史
- 湯をかぶり冷えた体を温めて心の汚れきれいに流す
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 小川 玄晋
- 湯につかりほつと一息三十分あつという間に時間は過つた
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 佑衣
- 若きころ湯につかつては極楽ぞ思い出したは最期の記憶
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 関 琉翔
- あつあつのお湯をかぶつてきれいさっぱり上がったまってる牛乳一本
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 美紀
- 湯につかるつかれをいたす魔法の湯どこにあるのかさがしいこう
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 関 優人
- 毎日の疲れとるには温泉でお湯につかつて休むことかな
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 馬場 理花
- みなかみの自然あふれた露天風呂つかれを癒す故郷の湯
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 大川 陽生
- かけ湯して温度確かめ足つかり疲れ吹き飛ばす温泉の良さ
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 愛昔夢
- みなかみの極寒貫く現地の湯我らをあたため皆温厚に
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 櫻井 拓夢
- 道中に光り光るホタル達湯入る帰りもお出迎え
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 一登
- 湯畑や街に香る葉の湯その香りこそ体に染みる
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 春華
- 九つの湯一つの町にたくさんのめぐつてみれば新たな世界
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 春華
- みなかみのいつも温かい温泉はいつもポカポカみんな笑顔
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 夢奈
- 湯舟に入り一息つき明日はなにしようと考える時
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 青木 空
- 露天風呂空見上げればきらきらとまたたく星にああいい湯かな
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 小松 湊望
- みなかみの地下から湧き出る温泉は群馬唯一の満点の湯
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 真庭 陽介
- 湯浴びて疲れも吹き飛ばすこの熱さまた行きたいと願うばかり
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 裕規奈
- みなかみの湯にかくされた君の笑顔つらくなつてはまた幸せに
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 諸星 愛瞳
- 四季折りたつ万里のいやしこの秘湯たつ湯けむりの内を行く影
 みなかみ町立月夜野中学校 2年 景山 蓮太郎
- 風に乗るわがふるさとのみなかみの湯の香りたち我らを誘う
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 我妻 璃一
- 温泉の湯の温度たしなみ思い出知る
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 桔平
- 僕はね温泉が大好きです湯が大好き湯が大好き
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗
- いい湯だな心落ちつくこの温度
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 優雅
- あつたかいやつぱりこの湯最高だ
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 優雅
- 谷川の険しい稜線包みし湯けむりに望む利根川水源の地
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 百葉
- 寒いとき入りたくなる露天風呂降る雪と湯気その場を染める
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 石坂 真優
- いそがしい日々を忘れて旅に出る出湯の香り心やすらぐ
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 榎岡 李枝
- 湯の町の夜の湯畑見えて思うまた来たいなあ家族みんな
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 榎岡 李枝
- 冷える夜にわが身と心あたためるわきでる温泉やわらかい湯
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 佐藤 鈴生
- 心身の癒やしをもとめてつかる湯は心に清く身に優しく
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 塩野 玲奈
- 湯につかり両手の中に揺らぐの自然のくれる世の贈り物
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 塩野 玲奈
- スキー後に行く先はゆらゆらと空に消えてく白い湯けむり
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 田村 紗弓
- あちこちに湯の看板が立っているいつかいつか行きたいな
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 瑠鈴
- 草津の湯一度はおいでつかりにねつかれをほぐし心をややす
 みなかみ町立月夜野中学校 3年 関 優輝

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

みなかみの温泉入って温まるやさしい湯気が体を憩う

みなかみ町立月夜野中学校 3年 金子 然土

湯気昇り降ってくる冬と混じり合い月霞ませる冬の露天風呂

みなかみ町立月夜野中学校 3年 増田 賢志朗

湯につかりその日の疲れ流されて心やすらぐみなかみの湯

みなかみ町立月夜野中学校 3年 伊藤 友利

銭湯は疲れを癒す場所だから

みなかみ町立月夜野中学校 3年 小野 つゆき

冬しんしんほっとひといき癒しの湯

みなかみ町立月夜野中学校 3年 川田 美空

湯につかり日々の疲れをとりたくて家族みんな温泉旅行

みなかみ町立月夜野中学校 3年 矢島 愛桜

みなかみのお湯につかり見渡せばきれいな景色笑顔輝く

みなかみ町立月夜野中学校 3年 湯本 真央

みなかみの湯けむりの中見える景色は銀世界かな

みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 万夢

風呂洗い自分で貯めたお湯こそが疲れた体に染み渡る

群馬県立沼田高校 1年 味戸 一真

湯の花の沈む泉のゆらめきが夜空に浮かぶ星空のよう

群馬県立沼田高校 1年 市川 陸

湯気のぼる湯船の中に影一つ期待に胸を弾ませ向かう

群馬県立沼田高校 1年 小池 諒祐

風呂の中湯で身の汚れを流しけるそして宿題の記憶も流してしまう

群馬県立沼田高校 1年 須田 絢人

いい湯だなみんなで入ればあつたかい心も体もきれいさっぱり

群馬県立沼田高校 1年 高橋 凌

湯のみにさあつたかさお茶淹れて飲んでる今日の朝寒い

群馬県立沼田高校 1年 武井 凛太郎

湯煙に紛れ降る雪はどこか懐かしさを感じるものだ

群馬県立沼田高校 1年 中村 和美

湯につかりぼっと見あげて風吹けば湯煙が流れ見えるフユノヨソ

群馬県立沼田高校 1年 中村 和実

流れる湯沸き立つ湯気は憂うつにすべて忘れて水に流そう

群馬県立沼田高校 1年 原沢 悠良

湯につかりしずくが背に落ちるぶると血管刺激したたる肌

群馬県立沼田高校 1年 峰岸 佳吾

祖母の大家族立ち寄る老婆心名湯浸り湯豆腐すくう

群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔

雪見風呂はだ刺す風を真に受けて優しい湯でも息真つ白かな

群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔

セミが鳴ききつげばとつくに師走入りはかなくづく湯気のような

群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔

青寒い日の晩家族で近くの湯元に足をはこぶ

群馬県立沼田高校 1年 青木 謙

水上の奥地にひそむ湯けむりと川のせせらぎが心を癒す

群馬県立沼田高校 1年 五十嵐 開

友達と温泉入ってリラククス距離を保つて「いい湯だなあ」

群馬県立沼田高校 1年 生方 一輝

寒い冬雪がたくさんスキーするした後の温泉いい湯だなあ

群馬県立沼田高校 1年 大堀 莉輝

湯をめぐる夢に焦がれて計画すコロナのせいでバブ入れ入る

群馬県立沼田高校 1年 加藤 秀樹

父と子の二人旅行で湯に入り大きくかまえる父の背中

群馬県立沼田高校 1年 唐木 俊介

寒い日の体震える冬の風寒さをしのぐ湯の暖かさ

群馬県立沼田高校 1年 佐藤 周平

露天風呂立ちのぼる湯気に近頃冬が来たと感じる僕

群馬県立沼田高校 1年 戸神 杏梓

湯けむりの立ちのぼりたる温泉や身温めて心いやさん

群馬県立沼田高校 1年 宮崎 正光

みなかみのスキー場も良きものだが良い湯にも花が咲く

群馬県立沼田高校 1年 横坂 亜蓮

寒冷の川に立ち立つ煙では温泉の湯気に勝ることなし

群馬県立沼田高校 1年 横坂 莉己

朝風呂に入ると冬の寒さに湯さめし心と体がひきまざる

群馬県立沼田高校 1年 板橋 享弥

湯屋に行きイタズラしかける父の背に別の背にかけ謝る父の背

群馬県立沼田高校 1年 遠藤 陽斗

秘境の湯猿ヶ京山に触れ他県の湯から客が来たり

群馬県立沼田高校 1年 金井 琉偉

温泉で疲れがとれて元気がでる湯のパワーをもらった気がする

群馬県立沼田高校 1年 木内 一步

関東の湯所名所群馬県数は多く質は高く

群馬県立沼田高校 1年 栗原 玲士

湯けむりで目の前見えず月の夜眼前は白頭上は星々

群馬県立沼田高校 1年 佐々木 慧

湯舟見て透き通る湯と昇るゆげ昇る様は太陽の様

群馬県立沼田高校 1年 関上 拓哉

寒い冬体の芯は凍りつき湯で解かされて幸福だ

群馬県立沼田高校 1年 星野 匠哉

冬の日の体ふるわせさむがるとあたたかい湯につかりたいかな

群馬県立沼田高校 1年 赤崎 成

夜遅く父母と会話し湯に入り今日振り返りほっと一息

群馬県立沼田高校 1年 生方 安滋

肌をさす師走の寒さ耐えかねて湯わかしをして風呂に入らむ

群馬県立沼田高校 1年 大河原 蒼央

まど曇りあたたまったいつもの湯アストで疲れたからだ休らく

群馬県立沼田高校 1年 金子 隼士

自転車疲勞困憊真冬日だ温かい湯は体にしみる

群馬県立沼田高校 1年 桑原 采蔵

はやくはやくお湯がわくまで後一分今すぐ食べたいカップ麺

群馬県立沼田高校 1年 桑原 翔太

湯の中でふと口ずさむ春祝歌我等が母校と思いはせる

群馬県立沼田高校 1年 谷川 皓哉

みなかみは雪の成田の不動尊参りてのちに湯屋の煩惱

群馬県立沼田高校 1年 角田 貴紀

昨年の冬初めて二人で旅に出て今は去りし湯とあなた

群馬県立沼田高校 1年 友松 武昭

塾帰りご飯を食べてスマホ見て家族が湯から上がるの待つ

群馬県立沼田高校 1年 中須賀 大

日曜日カップ麺に湯注ぐ楽しみに待つ三分後

群馬県立沼田高校 1年 畑 友貴

湯に浸かり動画を見ながら菓子食べるこれに勝る幸せなし

群馬県立沼田高校 1年 羽鳥 光太郎

僕もまた再び温泉につかりたいその湯につかれば体が癒える

群馬県立沼田高校 1年 本多 真彦

なつかしい父と一緒に湯につかりたまには背中を流したい

群馬県立沼田高校 1年 松川 初

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- 名湯の湯につかるより家の風呂いつも落ちつく憩いの名所
 群馬県立沼田高校 2年 宮田 旺宗
- 一日の疲れをいやす我が家の湯船につかる夜のひととき
 群馬県立沼田高校 2年 櫻澤 真
- 一面が雪におおわれ温泉地吐く息湯気もどれも白かな
 群馬県立沼田高校 2年 狩野 翔太
- 谷川の名湯思わず川霧の趣深いみなかみの冬
 群馬県立沼田高校 2年 塩原 絃太
- 銭湯を見て懐かしむふるさとを湯気たちのぼる望郷かな
 群馬県立沼田高校 2年 茂野 太一
- 名湯の発祥の地の群馬県名高き山の峰は連なり
 群馬県立沼田高校 2年 石北 輝依
- 湯けむりでぼやけて見えし友の姿日々の鍛錬身体に見える
 群馬県立沼田高校 2年 横坂 怜央
- もみじの葉湯に浮く姿眺めては初雪を待つ秋の夕暮れ
 群馬県立沼田高校 2年 白濱 輝
- 寒い日は恋しく思う草津の湯我が身と心癒しを求む
 群馬県立沼田高校 2年 深津 信虎
- コロナ禍で必需品の加湿器で部屋に入ると湯けむり状態
 群馬県立沼田高校 2年 笹川 拓真
- 日本の温泉街は盛り上がり観光客や湯けむり多し
 群馬県立沼田高校 2年 石井 優太
- 真っ白な白い雲たち落ちてきて見ながらつかる温かな湯に
 群馬県立沼田高校 2年 金子 海斗
- 白雪で映える白湯人の肌心も体も温まる
 群馬県立沼田高校 2年 小林 弘宣
- 白吐息杖持ち歩く夜の道湯冷めし着込む若山牧水
 群馬県立沼田高校 2年 小林 耕士
- 夕暮れの太陽照らす湯けむりにうつる人はもう帰らぬ人かな
 群馬県立沼田高校 2年 須藤 太輝
- 湯煙を目安として集う世人疲れを脱ぎ袖子を纏う
 群馬県立沼田高校 2年 廣田 隼人
- 湯もかけて一部落すは雪化しようふとおもゆるは君の素顔で
 群馬県立沼田高校 2年 飯塚 千公
- 寒い夜冷えた体に熱い湯をかけたらさらに熱く感じる
 群馬県立沼田高校 2年 井口 海人
- 雪誘う落葉を運ぶ流水が季節流れて湯として環る
 群馬県立沼田高校 2年 倉嶋 祈時
- 朝ぼらけ湯煙のぼる雪化粧白く光る花畑のよう
 群馬県立沼田高校 2年 萩原 天将
- 日も沈み凍える体芳つて湯けむり香る我が家の湯
 群馬県立沼田高校 2年 野村 康介
- 語り合はす湯と祖父のあたたかさながれは続く月かたぶくまで
 群馬県立沼田高校 2年 橋爪 美真
- お湯とともに疲れと寒さ消えていき冬の温もり増してゆく
 群馬県立沼田高校 2年 星野 世成
- 湯にうかぶ山口に降りつもる雪化粧消えゆく姿あはれとぞ思ふ
 群馬県立沼田高校 2年 村山 純平
- しゃくなげの湯けむりが舞う暗闇に光に照らされ美しきかな
 群馬県立沼田高校 2年 笹木 拓哉
- 雪の中温もりをくれる湯もあれば散る秋景色の寂しさもあらず
 群馬県立沼田高校 2年 外山 勇輝
- 我県の体にしみる自然の湯あたたまる身にいえる体
 群馬県立沼田高校 2年 堤 悠斗
- 時を経て思い返せば霧が立ち記憶の端でぬるま湯扇ぐ
 群馬県立沼田高校 2年 荒川 泰平
- 家は立ち道は整い世は移りされど変らぬみなかみの湯よ
 群馬県立沼田高校 2年 荒川 泰平
- その昔赤城の神の傷癒やし今もなお澄む老神の湯よ
 群馬県立沼田高校 2年 長谷川 翼
- 我が家の湯ひのきの香る入浴剤疲れほぐれるいつもの湯かな
 群馬県立沼田高校 2年 堀 諒丞
- 群馬の湯観光名所と名物と思ひ出残す我が地の恵み
 群馬県立沼田高校 2年 齋藤 春樹
- 木枯らして冷えた体を温めるみなかみの湯は心もとける
 群馬県立沼田高校 2年 佐藤 夏生
- 湯けむりを感じて浸かる露天風呂秋を彩る紅葉降りつつ
 群馬県立沼田高校 2年 見城 永遠
- 頬赤く寒さを感じる帰り道我が家の湯には柚子の香り
 群馬県立沼田高校 2年 関 翔琉
- 寒すぎて帰宅後すぐにシャワー出すいつまで待ってもお湯にならんあ
 群馬県立沼田高校 2年 春原 慶壽
- シャワー出し裸で寂しく突っ立ていつまで待てばお湯になるのか
 群馬県立沼田高校 2年 春原 慶壽
- 寒き日の心いやすはありがたき故郷の湯の温きかな
 群馬県立沼田高校 2年 加藤 安紋
- 温泉の来るとこみんなつゆ知らずお湯につかればとても気持ちいい
 群馬県立沼田高校 2年 真庭 大輝
- 温かな湯に囲まれる我が身には体の疲労彼方へ向かう
 群馬県立沼田高校 2年 水野 佳貴
- 夜の中に湯煙漂う町一つ人はみな着る湯帽子
 群馬県立沼田高校 2年 都丸 晃誠
- 朝起きてくず湯を片手にこたつ入り雪積もる朝の目は覚つかず
 群馬県立沼田高校 2年 齋藤 大輝
- 日本一湧出誇る草津の湯群馬の名泉病を治す
 群馬県立沼田高校 2年 小沼 蒼生
- 今日一日の嫌だったことを風呂の湯で洗い流せば頑張れる
 群馬県立沼田高校 2年 木村 一晴
- 今日もまた湯ふねに入りふり返る今日一日もさわがしかった
 群馬県立沼田高校 2年 斎藤 修真
- 冬になるますます寒さ強くなる湯のぬくもりが恋しい季節
 群馬県立沼田高校 2年 竹田 優希
- 雪積もり辺りに湯気が立ち登り冷えた体に熱い湯
 群馬県立沼田高校 2年 中澤 新之介
- 群馬県誇る名湯数多し漂う湯気は雪を彩る
 群馬県立沼田高校 2年 生方 章裕
- 寒い冬みなかみの湯のぬくもりは身体もほぐしこころ休ます
 群馬県立沼田高校 2年 高橋 雅空
- 群馬の湯行けば行くたび夢心地天地乱れぬ我心かな
 群馬県立沼田高校 2年 西本 臨太郎
- 冬の朝白湯飲み体温めてこたつに入る幸せの時
 群馬県立沼田高校 2年 相田 終牙
- 限りなく湧きつづく湯は人を癒し獣もいやし長年ありける
 群馬県立沼田高校 2年 榎本 惇紳
- 人並みのお湯を便りに一安心友の顔からこぼれる笑顔
 群馬県立沼田高校 2年 新宮 光晴
- 人々の心をいやすみんなの湯白いけむりがものがたる熱
 群馬県立沼田高校 2年 松井 秀憲

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- 湯あみして赤く染まりてゆく体昇りゆく息降る雪の様さま
群馬県立沼田高校 2年 丸山 真之介
- 白滝に雪化粧のかかるとき冷たい水も湯に見えるかな
群馬県立沼田高校 2年 信澤 正太郎
- 冬になりゆげ立ち昇る湯につかる疲れを癒す至福の時
群馬県立沼田高校 2年 渡辺 匠
- 部活からかえって入るお風呂の湯気持ちいいあつたかい
群馬県立沼田高校 2年 小林 聖菜
- 露天風呂急ぎで溢る湯の上ですべる足元落ちる紅葉よ
群馬県立沼田高校 2年 星野 喬亮
- 肌を刺す風が揺らした干し柿の渋さを感じる湯飲み茶碗
群馬県立沼田高校 2年 平井 謙伸
- 外は雪湯を立てて待つ午後六時群馬の夜に心踊る
群馬県立沼田高校 2年 佐々木 拓巳
- 寒空に口から出た白い息のまれて消える湯けむりの中に
群馬県立沼田高校 2年 藤井 涼生
- 寒い日の雲に立ちゆく湯の煙我が目に見えるは白一色
群馬県立沼田高校 2年 大久保 溪梧
- 幸せなおいが香る湯の中に祖母からもらった柚子うかんでる
群馬県立沼田高校 2年 鈴木 翔太
- ストーブの上のやかんの湯が沸くにぼんやり見つめる白いぬくもり
群馬県立沼田高校 2年 中村 元
- 寒空に広がる星に思いはせ結ぶ約束立ちこむ湯けむり
群馬県立沼田高校 2年 遠藤 康太郎
- 寒い日は湯船につかたて掘りこたつ皆で囲む大きなお鍋
群馬県立沼田高校 2年 林 大貴
- 毎日の生の源風呂にあり湯を流すこと世を過すこと
群馬県立沼田高校 2年 千明 淳之介
- 部活終え帰宅後まずは髪洗い湯船につかり居眠りをする
群馬県立沼田女子高等学校 2年 生方 令奈
- みなかみの湯の里めぐる峠道にいしえからの美しながめ
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- 三国越えまず楽しみは法師の湯今も変わらぬランプの宿
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- しん寒み情湯じょうゆともに温み増しぬく古都人水はすみつづくかな
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- 朝起きていつものように湯を沸かし窓を開けたらもう銀世界
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 結音
- 落ちつく場夜景と共に反射する波うつ湯の上露天風呂
群馬県立利根実業高等学校 1年 横倉 心夏
- 北風で乾いた肌にしみるお湯
群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 慎之介
- 朝がきてお湯をわかすねお茶のみかお昼もわかす夜もわかすね
群馬県立利根実業高等学校 1年 牧野 翔
- このじきは湯からわきだすあつたまり
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 薫
- 秋時雨給食前の蛇口に列ここからお湯が出たらしいのに
群馬県立利根実業高等学校 1年 平澤 舜
- スキー後の冷えた体にしみるお湯
群馬県立利根実業高等学校 1年 原澤 寧苑
- 湯上がりにコーヒー牛乳一気飲み罪悪感などする気もない
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 熱い湯の中に体を預けては気持ち良すぎて出られなくなる
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 湯をわかしみなのための温泉は日々かさねきて努力の形
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 熱湯をカップめんめんにそそいだら三分待てば幸せ感じる
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- さ湯を飲み心も候も温かく最高の温度気分も上がる
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 最近の疲れを取りに温泉へ湯の加減良く気分高まる
群馬県立利根実業高等学校 1年 根岸 真尋
- 寒い冬凍る手足を温めため息吐くと白い湯気浮く
群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 颯汰
- 湯たんぽに湯がいっぱいあたたかい布団からでられない冬の朝
群馬県立利根実業高等学校 1年 中澤 礼人
- 日本一白根を臨む我が県の湯畑輝く草津町かな
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸澤 大智
- さむい日にお湯をわかつてココアのむ心も体もあつたまる
群馬県立利根実業高等学校 1年 関根 大和
- 温泉の湯は気持ちいいみんながねそれですつきりみんなで行こう
群馬県立利根実業高等学校 1年 椎名 竜翔
- 仕事から帰ってきたら湯をわかした日々のつかれを洗い流す
群馬県立利根実業高等学校 1年 片山 樹
- 湯冷ましにフーッと吐く息真つ白なそれでも想いは上昇中
群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 くるみ
- 人肌にやさしくつつむぬくもりを湯けむりの中癒していく
群馬県立利根実業高等学校 1年 長谷川 菜奈
- 湯の中でふと思いだす初恋を遠い昔の淡い思い出
群馬県立利根実業高等学校 1年 井熊 愛琉
- 湯煎したカレーをご飯にかけて食べ皿を洗って食休みする
群馬県立利根実業高等学校 1年 牛尾 頼士郎
- 雪降る日寒い体で湯に入り孤独な自分と何かを話す
群馬県立利根実業高等学校 1年 内山 雅孔
- 温かいお湯につかたて気を安め疲れをとつていやされよう
群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 寧音
- あたたかい足湯につかりポカポカと足の疲れに和らぐお湯
群馬県立利根実業高等学校 1年 眞庭 菜月
- 寒い夜お湯を片手にテレビ見るおなかも心も温まるかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 楓真
- 湯を温め寒さをこらえ前準備肩まで浸り心はホカホカ
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮
- 家帰り今日のできごとふり返る気づけば疲れ湯の中へ
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- 水上は個性豊かな温泉地街を歩けば足湯ありけり
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- 山頂でお湯を沸かして食す麺めんいつものよりもおいしそうだな
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- お湯を持ち三分待って食すものたまにおいしいカップラーメン
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 律輝
- 風呂のお湯寒い日にはこれに限るゆつくりはいつてつかれをいやす
群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 悠真
- 湯をわかすストーブの上のやかんおきせつを感じる冬がきた
群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 流星
- 雪降りし雪を集めて湯をわかしてこにいるのはカピバラの群れ
群馬県立利根実業高等学校 1年 飯塚 拓海
- 湯冷めして温もり求め道歩むたどりつく先君の横かな
群馬県立利根実業高等学校 1年 稲垣 寛太

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- お湯わかし洗たくほしてたみこみきずいたころにはわかしなおし
 群馬県立利根実業高等学校 1年 鎌塚 海莉
- 冬になり季節の変化で寒くなり町行く人達が湯につかる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田川 通果
- 湯けむりが立つリビングに家族とき鍋をかこつて幸せなとき
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山戸 咲理紗
- 温まる家族みんなで湯に入りあの人が好きなゆずの香り
 群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 礼菜
- 毎日の夕食にでる湯どうふは家族みんなのダイエツト食
 群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 純菜
- 暖を取り湯のみを持つてお茶を飲む日常こそが奇跡なり
 群馬県立利根実業高等学校 1年 諸田 祐菜
- 熱々の湯気が昇るいいおだし冬のおでんがよくしみる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 治田 璃実
- お湯注ぎこたつに入り大好きな蒙古タンメンいただきます
 群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 ひなた
- コップの中にココアの粉とあたたかいお湯をそげばほっかほっか
 群馬県立利根実業高等学校 1年 長沼 光来
- 朝起きて水を温め白湯作るそれを飲むことそれが大切
 群馬県立利根実業高等学校 1年 新島 颯汰
- 湯気のぼる母との草津土産と揺れるはその温泉卵
 群馬県立利根実業高等学校 1年 塗木 優花
- お茶をつぐまちどおしいのはおしいの声をたたく湯気上るほど心あたたく
 群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 楓佳
- 服をぬぎ体を清めて湯につかる心も体もあぁ、リラックス
 群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 楓佳
- いつもの風呂今日は変えて温泉に湯で温つたまり家族も一つ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 野上 勇氣
- 温泉の湯の中だけのひとときと言えない言葉自分の思い
 群馬県立利根実業高等学校 1年 野上 勇氣
- 夕食時湯気立ちのぼる家族鍋唯一一緒の空間共に
 群馬県立利根実業高等学校 1年 林 日奈葵
- 冬の露天湯の花香おる湯船から夜景を見るのが一番のロマン
 群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 翔太
- 秋香る夏の終わりに湯につかり寂しい想いも水に流す
 群馬県立利根実業高等学校 1年 柴村 柊羽
- 湯につかり友と眺める絶景を癒し効果二倍増し
 群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 崇久
- お湯入れてカップ焼きそば作つたらめんをシンクにぶちまける
 群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 薫
- 寒い日に入る風呂の湯温かく体のせがばかばかになる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 原澤 英佑
- 湯けむりのたなびく向こうにそびえたつ山々をみつめ息をかき消す
 群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 美結
- 日本が誇る有名十八湯他にはない唯一の地
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 右京
- この地にて今も伝わる湯の伝統古くからの大事な思い
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 右京
- 湯切り中おちたペヤングもつたいない頭に浮かぶユニセフの画像
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 優太
- 冬の夜のふんにもぐる猫達はおばあちゃんの湯たんぼのよう
 群馬県立利根実業高等学校 1年 田中 康太
- 湯畑の匂いをかいで温泉に入る気無くし家に帰りたい
 群馬県立利根実業高等学校 1年 関根 愛粧
- 母と行くゆれる湯船に映る空落ちる葉っぱは赤々と
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 七海
- 湯気の立つのぼせるまでと景色みて空けるピンはひんやりと
 群馬県立利根実業高等学校 1年 池田 思奏瑠
- 寒い日にぼん酢につけて湯豆腐をほつと一息今日も幸せ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 白井 そら
- 冬の温泉暖かい湯が寒い日の冷えた体をいやしくてこれが湯の好きな所
 群馬県立利根実業高等学校 1年 関 優羽奈
- 湯気のぼる向こうに母の姿あり今日もおいしいお鍋をどうも
 群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 沙良
- 冬になる必ず通る湯たんぼのほのかなぬくもりたまらん道具
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大山 歩美
- ふた開けて湯気でメガネに霧かかきまるで一人が別世界のよう
 群馬県立利根実業高等学校 1年 栗原 真花
- 冬限定猫型湯たんぼ抱き締めて小さなぬくもり感じて
 群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 琉衣
- 露天風呂湯気に隠れる木々達がどこか寂しげ星の下
 群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 綾華
- 温泉は疲れた心を癒してくれる上る湯気で包んで
 群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 綾華
- 日頃より疲れた身体を湯につけてほつと一息心を満たす
 群馬県立利根実業高等学校 1年 川端 真羽
- 湯畑の湯気が消えたら君がいて私の気持ちは消えないよ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 川合 菜々海
- 温かいココアの湯気を見つめてる頭の中では君のこと
 群馬県立利根実業高等学校 1年 竹沢 夕日
- 皿洗い食せん機使い冷たい手食せん機の湯気で温める
 群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 佑奈
- 電車降り家に着いて落ちつけばいい湯と思う一日の終わりに
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 楓
- 湯けむりでくもつた眼鏡の間から君を見つめる私の特権
 群馬県立利根実業高等学校 1年 藪目 香果雅
- 寒い夜暖いお湯月光三つそろつて極上の旅館
 群馬県立利根実業高等学校 1年 牛口 朔弥
- お湯わかし湯ぶねにつかりゆつくりと窓から入る淡い月光
 群馬県立利根実業高等学校 1年 牛口 朔弥
- 湯けむりの中におもうはなき人のいつかの思いつたえきれずに
 群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 柚香
- やかんからわきでた湯気が音ならしこたつの人を夢中にする
 群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 結葉
- 月みれば暗闇の中顔かくし輝き増して茶湯に映り込む
 群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 由萌香
- 冬の中外の湯船へ雪がよぶ心あたたまるほんの一時
 群馬県立利根実業高等学校 1年 五馬 玲奈
- 湯冷ましに家族と飲んだ牛乳ピン体は覚るが心は和む
 群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 雪乃
- 湯冷ましに月を見てると君のことふと思ひ出す秋の夜
 群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 美夢奈
- みなかみの温泉の湯は温かくみんな笑顔で帰っていくよ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 朱葉
- 朝起きて白湯を飲むなり眠くなる心温まり身心温まる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 朱葉
- 寒い朝あたたかいお湯一口でほつとするような不思議な感じ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 未羽

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

熱湯でペロヤケドした最悪なこおりで冷やそ早く治そ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 笠原 瑠々花
 湯浴みして心休めて明日へと机に染みてく温かさかな
 群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野入 まな
 湯煙と白い息とが交わって眺めし景色はまた美しき
 群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野入 まな
 雪達磨外に出ていて寒そうだお湯をかけたら消失した
 群馬県立利根実業高等学校 1年 羽賀 太一
 温もりが微かに残るこの湯殿冷えた体も解氷のよう
 群馬県立利根実業高等学校 1年 藤ノ木 涼夏
 秋の夜紅葉きれいに湯にうつり心さえもをあたためてゆく
 群馬県立利根実業高等学校 1年 西尾 和花
 湯たんぽを布団に入れた寒い夜こちがよくてでられない朝
 群馬県立利根実業高等学校 1年 間嶋 美結
 湯の中に入って遊ぶ子供達笑って見守る母の優しさ
 群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 花恋
 温泉の温まる水奇跡の湯癒され満たす日本の文化
 群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 花恋
 雪かきで冷えた体で湯につかりころからだも温かくなる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 琥太郎
 帰宅してあつたかいお湯手を洗う赤くむくんで手の甲かゆい
 群馬県立利根実業高等学校 1年 三浦 真綾
 あつたかい飲み物の湯気に白い息似ている姿に冬を感じる
 群馬県立利根実業高等学校 1年 丸山 未夢
 風呂入り冷たい身体を温めてお湯につかつて今日の反省
 群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 心晴
 寒い中身体を癒す師走の湯温もり感じ眠気が襲う
 群馬県立利根実業高等学校 2年 阿部 佑斗
 湯につかりまわり見渡し銀世界外は寒いが今あたたかし
 群馬県立利根実業高等学校 2年 上村 流偉
 熱い湯が疲れた体に染み渡る手の平見るとしわがありけり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田辺 大翔
 霜降りて冷えた体を温ためる湯から上がれば北の国なり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小島 啓嗣
 寒ければ白い湯気たつゆずの湯にぼかばかつかかり癒され湯かな
 群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 愛翔

冬の日はお湯につかつて温まる湯から上がれば雪景色
 群馬県立利根実業高等学校 2年 千木良 昂亮
 温泉に揺れる湯船はきらやかだ入浴すれば心踊る
 群馬県立利根実業高等学校 2年 戸部 壮琉
 寒い夜湯船に入れば心が溶ける上がったあととは体重計
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 創大
 万年の疲れをいやす草津の湯上がった後はコーヒー牛乳
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山田 真那斗
 温泉の湯の中泳ぐ君達は幼い頃の私のようにだ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山田 将人
 湯につかり冷えた体も温める白くそまる景色を見ながら
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石坂 英大
 旅行客スキー帰りに入るお湯冷えた体にしみわたっていく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 瑛釈
 湯の中は疲れた体いやすところ景色もきれいなみなかみ温泉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田浦 智也
 温泉の湯けむりもくもく水上の夏の山々緑は深く
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関根 憂飛
 草津の湯誰しもみんな安らぐ湯
 群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 創太
 熱い湯につかりし体とろけゆく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 創太
 秋過ぎて雪も積りしみなかみで湯に感じるは人の情
 群馬県立利根実業高等学校 2年 青木 一明
 みなかみの景色見ながら入る湯は心安らぎ気持ち落ち着く
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石坂 成瀬
 湯につかり心も体もあたたまる水上温泉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 仰輝
 湯の都水上にある温泉ほどの湯を見ても名湯ばかり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 宇津野 海翔
 みなかみの名湯多し温泉地温かい湯と温かい人
 群馬県立利根実業高等学校 2年 塩浦 匠汰
 みなかみは名湯多き温泉街その身を清く心を清く
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田村 光
 からつ風家に帰れば草津の湯心と体を満たしていく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山田 拓実

しもおりて寒さが目立つ冬の朝早くもお湯に浸り丸まる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 綿貫 雅真
 雪積もる谷川見ながら湯につかる雪が降るのもそろそろだろう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 令哉
 雪の中のんびりしつつ湯につかり寒さを忘れ景色眺める
 群馬県立利根実業高等学校 2年 伊藤 昭一
 ただ一人雪が舞う中歩いてる奥の右から湯の香りが立つ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 佳広
 思いつくバスにゆられて草津行きこえた身にしみる命の湯
 群馬県立利根実業高等学校 2年 仲澤 綾
 おるす番急にお腹がすいてきて思わずお湯入れたカップラーメン
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 心乃花
 テスト期間いつもお湯をわかつて作ってくれども温かいホットココア
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 心乃花
 やつときた一年一度冬の時期湯ふねにつかりいやしの時間
 群馬県立利根実業高等学校 2年 竹吉 経一郎
 冷えてきた布団は毛布一枚だそろそろ湯たんぽ使ってみよう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 竹吉 経一郎
 寒い冬湯船につかり暖まる外は凍えるふるはポカポカ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 大和 紫織
 父入れたココアの湯気を見ていると優しさ感じ心温まる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 鶴淵 ゆかり
 草津の湯疲れがとれる魔法の湯硫黄の香りがとても苦手
 群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 菜々子
 寒空の夜にゆらめいた月明かり湯の中で帯のようにきらめく
 群馬県立利根実業高等学校 2年 安達 由那
 雪の夜苦しい思い出思いだすすべてをお湯と飲みほすが吉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関上 和真
 聞き間違ひ鬼滅のやえば歯医者かな母は湯こぼし水の呼吸
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関上 和真
 ポタージュのもととお湯たちよく混ぜて手も体をも温かくなる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 林 咲衣
 雪のふる寒さの中の湯けむりのほのかなぬくもり心やすらぐ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本多 夢来
 湯けむりに包まれ出会う人影はよくよく見れば猿でありけり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木 じゅり

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- 星空を見上げながらの露天風呂湯けむりからは満月かな
群馬県立利根実業高等学校 2年 佐々木ひより
- 寒くなるこの季節には湯につかり肩までつかってあったまろう
群馬県立利根実業高等学校 2年 佐藤 裕香
- お湯わかし三分待てばできあがりたまに食べれば幸せ感じ
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 詩瑠
- 温泉で良い湯につかりあたたまるスキー帰りの心と体
群馬県立利根実業高等学校 2年 岡谷 李乃
- お湯沸かし家族みんなでお茶を飲むこたつで会話冬のひととき
群馬県立利根実業高等学校 2年 高柳 真鈴
- コロナ危機こんな時こそお湯沸かしお茶でも入れて家族団欒
群馬県立利根実業高等学校 2年 大竹 真佳
- 硫黄の香あんなつかしい香りはもう五年前つかりたい湯に
群馬県立利根実業高等学校 2年 入澤 美月
- お湯そそぎ三分待ただけなら簡単おいしく出来るカップラーメン
群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 七海
- 寒い日の体にしみる我が家の湯長居しすぎて母大激怒
群馬県立利根実業高等学校 2年 山岸 咲月
- 寒い時期必ずお湯を使う日々家族全員抹茶ラテ飲む
群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 千聖
- コロナ禍で毎年行く温泉に銭湯入れずとても悲しき
群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 千聖
- 寒い日に家に帰ってお風呂にて何年たつても湯で遊んでいる
群馬県立利根実業高等学校 2年 菅原 里菜
- 毎日の疲れの癒し湯に入り事も忘れて長風呂に
群馬県立利根実業高等学校 2年 柳澤 京花
- 草津湯や心も体も温ったまる旅での疲労一時リセット
群馬県立利根実業高等学校 2年 笠原 瑠楓
- お湯飲むと食道やけじタイロレの体はあたたまったよ
群馬県立利根実業高等学校 2年 加藤 豪
- 湯の上にプカンと浮かぶゆず三つ天然我が家の入浴剤
群馬県立利根実業高等学校 2年 中西 胡桃
- 湯を沸かし具とみそ入れてひと煮立ち母からもらった合格の言葉
群馬県立利根実業高等学校 2年 中西 胡桃
- 湯を見れば月が跳ねるあの空の月が光り県を照らす
群馬県立利根実業高等学校 2年 日向 玄也
- ペヤングみどりのためききつねうどんお湯を入れたらすぐくえる
群馬県立利根実業高等学校 2年 林 佳宏
- くさつの湯きれいなお姉さんたくさんおんせん入ればハゲたおっさん
群馬県立利根実業高等学校 2年 林 佳宏
- 冬になり草津温泉湯につかり湯畑プリン美の冬の香り
群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 夢登
- 冬の風呂湯につかりながら考える今年一年すぐ過ぎた
群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 夢登
- テレビ見て湯畑映る草津町一度は行きたい群馬の誇り
群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 瑠花
- お湯注ぎ三分待って出来るのは私の好きなわかめラーメン
群馬県立利根実業高等学校 2年 笹原 月
- 寒い時家族で囲む鍋を見て体と心湯で温かい
群馬県立利根実業高等学校 2年 横坂 心美
- やって来た寒いと恋し我が家での身体をあたためる湯だ
群馬県立利根実業高等学校 2年 大澤 叶華
- 冬の疲れをごまかしていく温泉でゆつくりと湯につかりましょう
群馬県立利根実業高等学校 3年 峯川 彩音
- 湯のみ持ちコタツに入り寝転んで蜜柑を食べて人もコタツで丸くなる
群馬県立利根実業高等学校 3年 林 雅斗
- 露天風呂湯ぶねを色どる赤黄色夜には空を映しだす
群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 円香
- 冬が来てふるえながら過ぐす日は湯につかっただけあたたまる
群馬県立利根実業高等学校 3年 上保 麻紘
- 湯につかり曲をうたうこの時間今日の自分におつかれさま
群馬県立利根実業高等学校 3年 堤 梨乃
- 柚子かおる湯船につかり思い出す
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 佑月
- バスソルト入れただけで特別な湯
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 佑月
- 温泉は心をいやせる宝物湯めぐりをして行きたいものだ
群馬県立利根実業高等学校 3年 長谷川 昂太
- 冷めきつた体を癒やすお風呂の湯冷えた手足を温めるため
群馬県立利根実業高等学校 3年 和南城しずく
- お湯を入れコップにそそぎ香りたち部屋一面が紅茶の香り
群馬県立利根実業高等学校 3年 郷原 伯
- お湯を入れ美味しさ漂う茶葉の香の祖母は笑みでのありがと
群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 聖和
- 風吹けば湯に浮かびくるもみじ色溢れるほどに踊りだすかな
群馬県立利根実業高等学校 3年 井口 彩萌
- 湯で入れた紅茶を飲んでひと休み明日のテストは徹夜で挑む
群馬県立利根実業高等学校 3年 見城 杏美
- 湯につかりふと出る言葉気持ちいい冬のつかれ一気に吹き飛ば
群馬県立利根実業高等学校 3年 船橋 菜由
- 間合うか走る自分の制服に流れる汗と白い湯気たつ
群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 涼大
- 湯を注ぎココアの香り広がってホッと一息つく冬の朝
群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 潔羽
- 白い湯気冷えた体を温める日頃の疲れも忘れるように
群馬県立利根実業高等学校 3年 橋詰 王子郎
- 広い湯気冬を忘れる熱湯温泉疲れもふきとぎ入浴中
群馬県立利根実業高等学校 3年 橋詰 王子郎
- 寒い日の風呂後の廊下肌寒い湯冷めの方がまだ暖かい
群馬県立利根実業高等学校 3年 川上 竜征
- 水平線星に心に満天に湯冷めしたのは偶然なのか？
群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 愛里
- 働きもの心のバディ湯でいやすその身体さえ頭は許せず
群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 愛里
- 家帰り湯船につかり温まるあの瞬間がいかにか幸せか
群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 希
- なべの中お湯とたまごがぶくぶくと一分の差でおいしくなるよ
群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 桃香
- マグカップ甘い匂いにお湯そそぐココアを飲んでホッと一息
群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 桃香
- 外仕事柚子湯が身体に染み渡る柚子で彩どり香り漂う
群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 堅
- 暖かいこたつにあたる午後の居間湯飲みの中に茶柱ひとつ
群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 芽生
- お湯入れてカップラーメン待ちながらまだかまだかと長時間
群馬県立利根実業高等学校 3年 片野 涼人
- 頭からお湯をかぶってあったかいでも一瞬でひえる寒さよ
群馬県立利根実業高等学校 3年 片野 涼人

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

弟が一点集中見つめてる天井目指す湯の流れ

群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 萌

バスタオル風呂場でぬぐうひえるつゆ湯冷めが嫌のためらう押し戸

群馬県立利根実業高等学校 3年 大津 俊介

ミルク風呂湯から伝わる暖かさまで冷えた心暖まる

群馬県立利根実業高等学校 3年 坂口 理英

寒い日は湯船につかっ温まり心も体も共にリフレッシュ

群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 樹里

勉強のため息ついて一休み湯気立つ麵と進む時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 すみれ

冬の夜寝るとき寒く足こおるお湯をわかすも深夜の時間

群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 日花里

柚子浮かべ冷えし身体を湯に沈め一日限りの冬至温泉

群馬県立利根実業高等学校 3年 本田 結莉

温かいお茶を湯飲みにそそぎ入れ飲めば体にしみる暖かさ

群馬県立利根実業高等学校 3年 本田 結莉

湯につかりふうとひと息白い雲私の想いも乗せて飛んでけ

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 杏実

湯船にて水面近くに幼き指昔を思う夜の一時

群馬県立利根実業高等学校 3年 押江 宏透

雪景色湯気の極立つ露天風呂体に染め入る温かさなり

群馬県立利根実業高等学校 3年 押江 宏透

頬赤く寒さを感じた帰り道家の湯船は極楽地

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤田 晴菜

露天風呂湯船に浸かり夜空見て星に願って心温まる

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤田 晴菜

湯冷めした冷えた身体を温める君の温もり忘れはしない

群馬県立利根実業高等学校 3年 黒岩 令

温かい湯ぶねにつかり今日の目を静かに思う早い日々

群馬県立利根実業高等学校 3年 星 亜矢寧

湯に浮かぶゆず見て思ううまそうとそんな私は食いしんば

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥

湯の中でいきとめ目を閉じ考がえる君に言われた一言の意味を

群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥

辛い日はあたたかい湯に飛び込んでつかれを流し明日はリセット

群馬県立利根実業高等学校 3年 今井 凛

湯に浮かぶゆずの香りは落ちつくなまたこの湯にも入りたいなど

群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 伯斗

この思い僕の中で消えてゆく儚い姿湯冷めとともに

群馬県立利根実業高等学校 3年 富岡 琴羽

湯に入り力がぬげる安心感幸せ思いただ眠るだけ

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 香織

顔赤い湯にあてられて気絶する水が欲しいと起き説教

群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 香織

湯につかり心と体休ませる音楽流し気分展開

群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 裕子

毎日が寒くて家に引きこもる白湯を飲んであたたまる

群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 ひなの

湯の中で挨拶するはバラの花身も心もきれいな色へ

群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 穂乃香

朝起きて白湯のお祖母がひとりごと健康になるひげつんだよ

群馬県立利根実業高等学校 3年 菅沼 美里

寒い夜銭湯へ行き初雪だ明日は休日笑みがこぼれる

群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 秀斗

ありがとう家族に感謝伝えたい三年間の気持ちを胸に

群馬県立利根実業高等学校 3年 小泉 結乃

湯冷めして季節の変わり目風邪気味だあたたかい飲み物飲みたい気分

群馬県立利根実業高等学校 3年 田川 愛果

湯たんばや暖かい君ぬくもりを感じて過ごす白舞う季節

群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 瀬菜

ゴーグルにうつる深海ぼくらの湯船息継ぎすれば冷えてく夢だ

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 音香

空白くいつも見えない湯気なのに急ぐと増える人の悲しみ

群馬県立利根実業高等学校 3年 栗原 音香

絶景を求めて旅する湯めぐりをいつかはしたいと夢に見ている

群馬県立利根実業高等学校 3年 雲越 志歩

寒さから足早になり帰る今日湯に入りたいたいで叫ぶ

群馬県立利根実業高等学校 3年 木村 香奈

早足は冷気の闇から逃げるよに日に抜かれども湯気の灯りを

群馬県立前橋高等学校 1年 田村 鴻之介

痺れつつ縮んだ手足を湯にもどす今夜は確かワカメスープ

群馬県立前橋高等学校 1年 田村 鴻之介

湯につかり羽を広げる小鳥たち外を眺めて旅行気分

群馬県立桐生女子高等学校 2年 津久井 春香

お風呂場でスマホ片手に湯につかる気づいた時には二時間経過

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 瑞季

母親のつくるわかめみそ汁は湯気までおいしいにおい漂う

群馬県立桐生女子高等学校 2年 森 美貴

湯薬料理どれもくせが強すぎていつになったら食べ終わるだろう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 森 美貴

熱い湯にたくさん浸ってアイスバーそれは極上至福の時間

群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 日菜梨

寒い夜湯たんば一つベッドの中大きな君と小さな私

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 志音

湯をそそぎ消えたラーメンどこにいる残ったものはやけどの傷跡

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 志音

家中をうなぎのように逃げまわるホカホカ湯よりおやつの時間

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青山 実央

冬の朝顔洗うとき冷水でお湯じゃなかったのか生まれる悪意

群馬県立桐生女子高等学校 2年 伊藤 由唯

テスト前至福の時間湯につかる同時にぬけたエがつく国名

群馬県立桐生女子高等学校 2年 梅田 菜々子

立ちのぼる湯気に曇る私の眼映る夜空は夢か現か

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 愛子

帰り道肉まん頬張る湯気越しの冬と君との至福の時間

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高瀬 まゆ

カップ麺熱湯注ぎ3分待機深夜1〜時父との秘め事

群馬県立桐生女子高等学校 2年 丸山 悠

午後十時湯毛たちのぼるお湯の中一日終わりの反省会

群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 初菜

お昼時湯葉たべながら一人ごちる今日から私は一朱ノ大人

群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 初菜

湯を沸かす止める止める鳴くやかん火を止めてと母も鳴く鳴く

群馬県立桐生女子高等学校 2年 加藤 星奈

寒い冬お湯をわかして温まりこちよすぎてのぼせてしまう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大澤 羽咲

湯げがわく伊香保や草津みなかみのやってみたい温泉巡り

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大澤 羽咲

- たつぷりのお湯でぐつぐつバスタ風呂ぼーっとしてて吹きこぼれ中
群馬県立桐生女子高等学校 2年 今泉 那月
- 肉まんやつぱりピザまんいあやまん湯気のぬくもりあなたのぬくもり
群馬県立桐生女子高等学校 2年 今泉 那月
- 「何の日だ」湯船に浮かぶゆずを見て母に聞けば「あつたから」
群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 美伶
- あたたかい湯で癒される冬の夜もう少しだけ入っていたい
群馬県立桐生女子高等学校 2年 梅澤 幸来
- 波打つ湯水位が上がり目を剥くとおばがさふんと腰までつかる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那
- 露天風呂一人占めして周りを短い足でお湯をばたばた
群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那
- 朝早くホットココアを飲む私お湯を注げば冬を感じる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 川原 玖瑠海
- もくもくとたちこめる湯気映るきみ一緒に食べる肉まん一つ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 川原 玖瑠海
- 棒の足お湯でふやけて動かせばシワシワ上がる今日の気泡
群馬県立桐生女子高等学校 2年 小林 縁
- 冬の昼温泉街の白い湯気においにつられ湯元へ急ぐ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 村岡 美枝
- 祖父の家戸棚に飾る思い出は湯飲みに入る年季のひび
群馬県立桐生女子高等学校 2年 村岡 美枝
- 消えていく湯気も想いも暗闇へ白く儂い幻かな
群馬県立桐生女子高等学校 2年 山田 ころこ
- 疲れたとお風呂に入つていつの間にか湯船で眠る至福の時間
群馬県立桐生女子高等学校 2年 松本 知佳
- 朝起きてはちみつ生姜の湯を飲めば冷えた体のエナジードリンク
群馬県立桐生女子高等学校 2年 松本 知佳
- 肉まんを一口食べると白い湯気顔もうるおいご満悦
群馬県立桐生女子高等学校 2年 原子 真奈
- お湯飲んでテレビをつけて仕度する十一月の朝のルーティン
群馬県立桐生女子高等学校 2年 小野 瑠亜
- 熱湯を覆ぼけてかけた寒い夜最初の一語アチチチチチチ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真里奈
- 寒い冬服脱ぎダッシュでふた開ける湯船に浸ればふつとため息
群馬県立桐生女子高等学校 2年 蜂須 麻耶
- 両目で追うテレビの横の時計針湯気に手を当て著にぎりしめ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 金子 乃彩
- 湯の温度高まつていき顔火照り白く舞う雲追いかけていく
群馬県立桐生女子高等学校 2年 金子 乃彩
- サウナ出て冷水につかるおばあさん試みた母すぐ湯へ逃げる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 岩井田ひなた
- 寒い日に湯船に浸り百数え一日の疲れ癒される
群馬県立桐生女子高等学校 2年 古沢 実子
- こたつの中お茶とみかんは必需品湯気が上昇気分も上昇
群馬県立桐生女子高等学校 2年 天笠 空海
- 日が沈み走って帰った午後六時落とした湯のみと赤い指先
群馬県立桐生女子高等学校 2年 内田 楓
- 冬の夜半音につられて猛ダッシュ立ち昇る湯気お出汁のにおい
群馬県立桐生女子高等学校 2年 上岡 紗奈
- 舞い落ちる寒い空から白い雪静かに溶ける今年の湯
群馬県立桐生女子高等学校 2年 松沢 望羽
- つかめない湧き出すお湯と将来の夢もがきもがいてうですりぬける
群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 那奈
- 包み込む湯のあたたかさ身をまかせこぼれる体ときほぐすよう
群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 那奈
- 湯のにおい思い出される祖母の顔かすかに浮かびこぼれる笑顔
群馬県立桐生女子高等学校 2年 天笠 和香
- 夜一時お湯と卵と袋めん止まぬ欲望止まらぬ手
群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 に子
- 寒い夜浴槽洗ってお湯湧かすしかしびつくり栓開いたまま
群馬県立桐生女子高等学校 2年 池森 夏希
- いいチャンス痩せると意気込む休校中効果やいかに白湯を飲むだけ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 石原 桃子
- 校内の水道から出る冷たい水冬だけお湯が出たら嬉しい
群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡田 美音
- 朝沸かすやかんの音で目が覚める白湯飲み始まる私の一日
群馬県立桐生女子高等学校 2年 小澤 凜彩
- アイス食べ至福のひとつとき湯気けむる42℃の文字を見ながら
群馬県立桐生女子高等学校 2年 片山 日菜乃
- ヤカンから立ち昇る湯気消えてゆく脳裏に残る祖母の微笑み
群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 愛莉
- 寒い昼マグカップの茶葉に湯をそそぎついた時には濃い緑色
群馬県立桐生女子高等学校 2年 川崎 穂菜美
- 露天風呂冷たい風が湯気運ぶ暑さと寒さでまぶたが下りる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 木村 結衣
- 湯の花と雪景色浸る正月も入浴剤で今年是我慢
群馬県立桐生女子高等学校 2年 國枝 美玖
- 炊飯器湯気に顔を近づける保湿するのが日課です
群馬県立桐生女子高等学校 2年 小林 莉菜
- 湯に浸かるカピバラを見て我思う来世はどうかカピバラであれ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 佐藤 美涼
- 冬の湯は入ればなかなか抜けられず気づけば時間15分
群馬県立桐生女子高等学校 2年 茂野 のどか
- カップ麺お湯をそそげばあと3分まつたらあとは食べるだけ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 茂野 のどか
- 鳴いている湯沸きを知らせる幸の音私の心胸高なる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 成宮 未紗
- 友達と頬赤らめてほおばるよ湯気包まれる甘いあまん
群馬県立桐生女子高等学校 2年 成宮 未紗
- あちちち泡ふくお湯に気をつかいそくせきラーメン十二をさす夜
群馬県立桐生女子高等学校 2年 西 那奈子
- しんしんと湯へ積りゆく白い花じわりと溶ける心と共に
群馬県立桐生女子高等学校 2年 長谷川 桃香
- 寒い夜空の湯舟を見た瞬間静かに閉めてスマホに戻る
群馬県立桐生女子高等学校 2年 馬場 泉
- 家の風呂あふれるお湯の増量に姉と表明減量開始
群馬県立桐生女子高等学校 2年 広瀬 菜緒
- 救いの湯学年末に現れる真っ赤な手と鼻しびれる指
群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 七海
- 湯たんぽで体あたたため寝る夜もさめて起きる月曜の朝
群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 ゆら
- 湯の中に滴る涙祖父の顔幽かに聞こゆ最後の言葉
群馬県立桐生女子高等学校 2年 前原 百花
- 寒空に凍えながらつかるお湯季節の変わり目冬を感じる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 松井 菜月美
- 夏の夜一人沸かす湯の音で蘇ってくる母の麦茶
群馬県立桐生女子高等学校 2年 柳原 心響

温泉のお湯熱熱長風呂だ長分上々会話が弾む

群馬県立桐生女子高等学校 2年 横田 日和

湯けむりで視界がかすむ温泉街幻想的な景色広がる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 吉田 葵

亡き叔父と週末向かうは老神か湯煙にこそ誰そ彼浮かば

群馬県立桐生女子高等学校 2年 秋山 七海

立ち上がり低くなりける湯船の背姉妹の成長感じた夜に

群馬県立桐生女子高等学校 2年 浅野 妃南

吐く息も白くそまる雪の日に袖浮かべし湯暖まりけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 美裕

せんすいかん浮かぶ昼間懐かしむ心沈む夜中湯量を増やす

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 悠月

夕食におでん作りで湯をわかすはやくはやくとグーグー鳴るお腹

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石関 華音

寒くなり手を洗ったび皆凍る蛇口ひねるがお湯は出てこず

群馬県立桐生女子高等学校 2年 市川 美輝

湯の花が華麗に躍り咲き狂う寒い日に降る雪のごとし

群馬県立桐生女子高等学校 2年 内田 磨佳

湯葉料理初めて食べたこの味は忘れられない大人すぎる味

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大川 玲伸

温泉で湯もみしたとき思い出し冷たくなりゆく我家の湯ぶね

群馬県立桐生女子高等学校 2年 織間 里桜

とぼとぼとお湯を注いでカップ麺食べ始めるもはごたえ残る

群馬県立桐生女子高等学校 2年 後藤 映月

湯の中で頭からつぽ反省会やな事忘れ鼻歌うたう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 河内 華

人生で初めて食べた湯葉の味意外といけた私は大人

群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗原 由衣

有名な日本の名湯群馬の湯これがなければ魅力度最下位

群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗原 由衣

湯につかり歌っていると一時間外に響くと父の一言

群馬県立桐生女子高等学校 2年 黒澤 奈々花

夕食に家族で囲む白い湯気冬の醍醐味おでん鍋

群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 美空

夕間暮れ紅茶の茶葉で染められた湯の色がなお赤になる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高橋 愛美

寒いから湯を沸したがめんどどうで選ばれたのはあやかでした

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高橋 愛美

冬の夜脱衣所寒い急ぎ足肩までつかるあぁいい湯だな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 関口 侑花

日光の名産物の湯葉を食べ大人の味に理解できず

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 萌

冬の風呂湯船に浸かり思い出す祖母と覚えた都道府県

群馬県立桐生女子高等学校 2年 徳満 華

湯を沸かし疲れて入る金曜日眠気高まり危うい状況

群馬県立桐生女子高等学校 2年 野本 明輝

湯葉を食べ思い出したる年にバスもいすもソーシャルディスタンス

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋本 光

あいの湯飲みの冷める午前二時いつかの気持必ず来たらず

群馬県立桐生女子高等学校 2年 畑田 海友

くつくつと湯が音をたててきた鍋家族で感ず冬の訪れ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 風花

冬の朝白湯を飲めば生きかえる私の一日スタートだ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 樋口 茜羽

箸つかむつゆをまとったさしみ湯葉とろける口どけ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

湯あがりのめんどくさいなドライヤー起きた朝には大爆発

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

蓋開けてお湯を注いで約3分深夜十二時止まらぬ食欲

群馬県立桐生女子高等学校 2年 福田 はな

湯の香り心落ち着く日本の史心も身体も癒されるかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤生 乃愛

年明けてこたつ囲み持つ湯のみほっと一息眠くなる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真澄

紅葉湯葉高し郷土の名産品舌には味わい高し

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山中 祈

湯に浮かぶ心の疲れ紅葉もみじの葉秋風すらも心の癒やし

群馬県立桐生女子高等学校 2年 安達 楓

また今日も気付けば寝た湯の中で目を覚ましたらシワシワな指

群馬県立桐生女子高等学校 2年 天沼 瑚晴

家の風呂毎日変わる入浴剤気分は一人で温泉旅行

群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 瑚子

湯につかる心自然と落ちついてふと奏でてる君好きな歌

群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 琴音

「めんどだ」前に感じる不快感お湯に触ればばつと消えさる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石川 陽葉

湯気あがり目の前真っ白視界悪し晴れば広がる満天の星

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石川 陽葉

月明かり照らすお湯の水はなんぞこんなに美しいか

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石川 陽葉

こえ入る露天風呂熱いお湯からモクモクゆげに満月も霞かかる秋の十五夜

群馬県立桐生女子高等学校 2年 今泉 里菜

洗顔中水がつめたたく目が覚める終わる頃にはお湯は洗濯機の中

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岩崎 莉梨花

夏の風呂あつくてみんなに嫌われる残ったお湯は洗濯機の中

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岩崎 莉梨花

九時帰宅そこから飯あと宿題と自分だけの追いだきの湯

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡田 明日香

寒空に白く舞い立つ湯畑に思い出された君との時間

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岡村 綾華

「倒れたの(笑)」長風呂しすぎた黒歴史今では笑える湯中り話

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小倉 美咲

起床後の白湯一杯は体にいいやつてはみるも三日坊主

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小倉 美咲

お湯入れて3分待ったらできあがり温まるのは麺だけじゃない

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 瑠那

制服で部活終わりの冷える夜湯たんぼ代わりの仲間の体温

群馬県立桐生女子高等学校 2年 神山 凛奈

久しぶり湯船に浸かる自主練後慣れない長湯であつさりのぼせる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 神山 凛奈

暇な午後一人で挑むお菓子作りほかほかしている湯上がりプリン

群馬県立桐生女子高等学校 2年 神山 凛奈

湯を沸かし健康のため白湯つくるさめるの待てず氷投入

群馬県立桐生女子高等学校 2年 木村 日菜子

外寒く体疲れて家につき幸せ感じる冬の湯の中

群馬県立桐生女子高等学校 2年 桐生 真緒

群馬県みなかみ町の温泉はとて面白いお湯日本一です

群馬県立桐生女子高等学校 2年 久保田 花穂

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

- 汗冷える寒い風きる自転車でお湯はまだかと急ぐ家路
群馬県立桐生女子高等学校 2年 小堀 叶愛
- お湯がないと怒る母後ろ向きコーヒー持つて逃げるパパ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 佐藤 温
- 九時過ぎて湯船の中に入るまでが私の中の嫌いな時間
群馬県立桐生女子高等学校 2年 塩谷 あいら
- 湯につかり恒例行事の反省会つい長風呂になってしまおうよ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 實川 珠奈
- 冬休み感染防止で家こもる湯につかる猿をうらやむ私
群馬県立桐生女子高等学校 2年 白木 優衣
- 目蓋とじ湯船に身体を預ければ年の終わりを感ぜさせらる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 瀬川 碧衣
- 冷えきった人肌恋しい身体を抱きしめ離さぬお湯のぬくもり
群馬県立桐生女子高等学校 2年 高川 来望
- 冬帰宅溜まる湯船に直行し冷えた足先じんじん痛む
群馬県立桐生女子高等学校 2年 高畑 柚香
- 二つ三つお湯に浮かぶ太った柚子ほのかに香る冬の訪れ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 高畑 柚香
- 冬の夜湯船につかりあたたまる疲れた私の心と体
群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 沙弥
- 寝てしまい入りそびれた夜の湯船から入って特別な気分
群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 沙弥
- 立ちのぼる湯けむり見つけいざ入浴私を包む湯のような館
群馬県立桐生女子高等学校 2年 田辺 真菜
- 登校時ポットにお湯入れチャリを漕ぐ学校着いたらみそ汁パーティー
群馬県立桐生女子高等学校 2年 中島 彩夏
- スープジャー粉末スープ湯に溶ける舞い上がる湯気母の愛情
群馬県立桐生女子高等学校 2年 中田 茉那
- 寒さなどお湯につかれば知らんがな湯気とともに浮いてゆく疲労
群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 里於
- 入浴剤入れた瞬間別世界手軽に楽しむ全国の湯
群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 結
- ランダムにつかみとつた入浴剤今日の湯の色何色だろう
群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 結
- ドアをあけ流れてくる湯と香り一気につかれがとんでゆく
群馬県立桐生女子高等学校 2年 堀越 愛海
- 「お湯よ出る」念じて流す水道水冷たい手のひら刺さる冷水
群馬県立桐生女子高等学校 2年 前田 由羽
- 水族館見慣れぬ景色にカビバラが湯にゆず浮かべ微笑んでいる
群馬県立桐生女子高等学校 2年 宮下 輝華
- 「早く出て！」ゆつくり百まで湯に浸かり何回目かの「うん、もう少し」
群馬県立桐生女子高等学校 2年 毛呂 妃那子
- あら大変山から降りた猿達と同じ湯浸かる初の混浴
群馬県立桐生女子高等学校 2年 毛呂 妃那子
- 冬の湯はまるで楽園夏なるともはや苦しい我が合わせろ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン
- お湯なしにカップ麺なしそうなれば生きる筋なしお湯しか勝たん
群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン
- もみじの手すくう湯の月流れ落ち八手の掌中満ちる寒天
群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン
- 銭湯で親父が語る憧れに僕の想いが湯となり溢れ
群馬県立桐生女子高等学校 2年 井上 璃乃
- 足湯から見える景色は昔から真つすぐ見る目希望忘れず
高崎商科大学附属高等学校 1年 小川 真美
- 懐かしい場所のような湯たんぽを求む帰路なり二度寝の夢へ
高崎商科大学附属高等学校 2年 小坂橋 彩花
- 湯気が立つ洗面後の手湯にてらす手につく水が輝いていた
塩尻市立塩尻東小学校 6年 林 和希
- だぶんとお湯の世界だこにはみどりから赤へうれたトマトだ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 桑原 百花
- ゆぶねにねぼかばかどうかぶみかんかおろもいつしよにうかんでいたんだ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 寺島 ひ花
- おんせんは家より大きいのだからね湯気がいっぱいできてくるんだよ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 水間 育実
- おんせんだいい湯にはいるろてんぶろ夕日をみながら湯につかる
塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 なほ
- 温せんに初めて入り大興奮湯けむりくもりすべつてころろぶ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 原田 想史
- 落ち葉ふみもう冬ださむ夏よ来いこんな時こそ湯にかぎりけり
塩尻市立塩尻東小学校 5年 原田 想史
- 湯につかり出たらやっぱビールだろいやいやぼくはアイスですけど
塩尻市立塩尻東小学校 5年 原田 想史
- 山の奥夜景の見える露天風呂白い湯気でかすむ街灯
塩尻市立塩尻東小学校 6年 百瀬 美桜
- お湯の音みんなで楽しむおんせんだしずかにしよう大好きなんだ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 桃愛
- ふるざらのお湯に入ってほらごらんつかれがすべてふつとぶんだよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 内川 蒼太
- 冬が来て下校の時もブルブルとお湯に入りたい気持ちだったよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 内川 蒼太
- おふろにて湯ぶねにつかりはなうたをうたっていたらおふろがこしよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 伊藤 向春
- さいきんはちよつときむいからお湯を飲むやけどしましためっちゃあつくて
塩尻市立塩尻東小学校 4年 寺岡 飛勇
- すごーくねつかれたときはすこくあたたかくふろはいい湯なんだよ
塩尻市立塩尻東小学校 4年 寺岡 飛勇
- お湯の音チャポンチャポンなっているきいてるときもちいいな
塩尻市立塩尻東小学校 4年 宮本 和果
- いい湯だな温せんめぐり全国へけしきうつくしあつあつお湯へ
塩尻市立塩尻東小学校 5年 山本 理恵
- うつくしきけしきもとめて百万歩つかれほぐしに湯ぶねにつかる
塩尻市立塩尻東小学校 5年 山本 理恵
- きこえるよ耳をすますとお湯の音この音がね最高なんだ
塩尻市立塩尻東小学校 6年 宮川 綾華
- お茶飲み湯のみにお茶をそそいだら茶柱立っていいことありそう
塩尻市立塩尻中学校 1年 百瀬 遥希
- あつのお湯そこにお茶を入れてのむ茶柱ないかさかしてみよう
塩尻市立塩尻中学校 1年 大原 充
- 温泉の湯ぶねにつかり考える思い出したのは夕飯のこと
塩尻市立塩尻中学校 1年 安藤 悠人
- 寒い中こたつの中で湯のみ持ちテレビ見ながらゆつくりする
塩尻市立塩尻中学校 1年 荒川 稜平
- 出川さん熱湯ぶろに入られて嫌だと言うが自分から
塩尻市立塩尻中学校 3年 大下 愛
- お湯飲んで落ちつけ私これからはテストたくさん落ちついて行け
塩尻市立塩尻中学校 3年 大下 愛
- 一日をなんとか過ごしてお風呂場へ湯船につかりホッと一息
塩尻市立塩尻中学校 1年 二木 健登

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・題詠作品

テレビでよく見る罰ゲー熱湯ダイブ暑い日にはどうも見苦しい
塩尻市立塩尻中学校 2年 有田 篤生

熱湯はすぐくあつくて死にそうだがあつたならね冷ませばいいんだ
塩尻市立塩尻中学校 2年 竹下 陸矢

湯をかけて体がぼかぼかつかれとれお風呂に入り一日が終わる
塩尻市立塩尻中学校 1年 竹内 颯

湯につかり指の先までポッカポカつかりすぎて感覚が無い
塩尻市立塩尻中学校 1年 奥平 椋太

朝ごはん湯がおいしく感じたら実感するよ季節の変わり
塩尻市立塩尻中学校 3年 馬場 友希

湯につかりつかれが取れたたんけんだホタル見つけて湯覚めした
塩尻市立塩尻中学校 1年 佐藤 宇純

温泉の湯船につかり極楽気分気持ち良すぎて気付けば一時間
塩尻市立塩尻中学校 2年 嶋崎 涼介

水筒の中を飲んだらやけどした水と間違い熱湯だった
塩尻市立塩尻中学校 2年 鍋島 柊司

冬の朝母のためにお湯をくむ感謝されると体も心もホットになる
塩尻市立塩尻中学校 1年 荻上 凌成

高校生以下の部【自由題】

作品集

683人 916首

苔むして木々に隠れる石垣はかつての栄華今に伝える

みなかみ町立月夜野中学校 2年 新井 柗善

木漏れ日が新緑の影地に映すそれが揺ららぎ夏を感じる

みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 拓海

大自然地球と向き合う話し合い自然破壊は地球も壊す

みなかみ町立月夜野中学校 2年 安原 飛巴

春くれば花の舞い散る我が校のそよ風の吹く広い校庭

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 凌真

春風に優しく肩をたたかれて我は感じる春の暖かさ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 飯森 媛

君は言う生きる意味はなんなのか僕は言うそれじゃあ一緒に探そうよ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 番場 陽菜

大丈夫僕は君を信じるよ素直に伝えよう大好きな君に

みなかみ町立月夜野中学校 2年 番場 陽菜

手をつなぎ君と二人で落ちてゆこう来世に幸せ願いなながら

みなかみ町立月夜野中学校 2年 番場 陽菜

シルビアはねんぴが悪いけど見ためがかっこいい車だよ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 黒岩 大晃

パソコンの使える幅を広げたい

みなかみ町立月夜野中学校 2年 黒岩 大晃

ゆらゆらと風にゆられるあの花はいまにもかわいくおどりださそう

みなかみ町立月夜野中学校 2年 中島 珠貴

じわじわとコロナウイルスやってくる僕の生活がらつと変わる

みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我

コロナ禍で落ち込む気持ちいやになる出かけたのに出かけられない

みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我

戦うよ君の分まで次の試合必ず勝つよ応援してね

みなかみ町立月夜野中学校 2年 石坂 颯我

夏の夜火花飛びちる家の庭最後の勝負は線香花火

みなかみ町立月夜野中学校 2年 平井 月南

変わりゆく吹く時により夏の風はあたたか夜は冷たい

みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 晃輔

日常がコロナのせいで奪われたお願いだから終息して

みなかみ町立月夜野中学校 2年 鈴木 愛梨

やまのぼり少しひといきついでみたいやなことでも忘れられた

みなかみ町立月夜野中学校 2年 篠田 美空

昼休みクラスメイトの馬鹿笑い変わらぬ日常日々の幸せ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 小林 朔

君想い青き春を追い求めされどかなわぬこの恋心

みなかみ町立月夜野中学校 2年 小林 朔

教室の窓から見える山々の美しさに憧れる

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 茉友那

星空を見上げる君の横顔は夏に輝く一等星

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 茉友那

日焼けした君の笑顔の明るさは夜道を照らすホタルのようだ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 茉友那

どんどんと風を感じて走りゆくすれちがう人あいつをさつをする

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 涼

ヒグラシが山に響いて鳴いている

みなかみ町立月夜野中学校 2年 南雲 風花

友達と帰る嬉しさ笑い声

みなかみ町立月夜野中学校 2年 南雲 風花

授業中ふと空を見上げて考える私の大好きな人

みなかみ町立月夜野中学校 2年 南雲 風花

夏の空好きな人と見上げてアオハルだ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 南雲 風花

みなかみは星と月が輝く夢の町

みなかみ町立月夜野中学校 2年 南雲 風花

星空を見あげて見れば流れ星明日いいことありますように

みなかみ町立月夜野中学校 2年 中村 柚嘉

慕参り馬に乗ったご先祖様向かえに行きつつおはぎ食べ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 矢野 夏希

勉強はとても大変難しい努力すれば天才になる

みなかみ町立月夜野中学校 2年 今井 快史

朧月空にうかびしあはれの花でかくれて見えぬ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 蓮

燃ゆる空海にうつりし沈みし日その景色はいと美しい

みなかみ町立月夜野中学校 2年 馬場 蓮

暑い夏涼しさ感じる風の音心も体も気持ちよし

みなかみ町立月夜野中学校 2年 鈴木 心結

温泉がたくさんわきでる群馬県心安らぐいい気持ち

みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 緋莉

露天風呂星空見ながらまつたりとゆつくりするのたまにはいいかも

みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 緋莉

きらきらと水面照らすホタルたち自然豊かですともきれいな

みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 緋莉

そよそよと涼しい夏風ふいてきた風鈴の音が聞こえてくるな

みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 緋莉

しんしんと空の上より降りて来て積もり積もって悲しくとける

みなかみ町立月夜野中学校 2年 小川 玄晋

少年よいつしかいえど別れそよ遠き道へと共に歩まん

みなかみ町立月夜野中学校 2年 関 琉翔

大自然木々に生き物利根川も大切にしよう我が故郷を

みなかみ町立月夜野中学校 2年 青木 麻弥

夜の窓からのぞく月あかりいくつの時もてらしてくれ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 マンユエス せな

難しやただ半音を外すとも変に聞こえし人間の声

みなかみ町立月夜野中学校 2年 大川 陽生

太陽と麦わら帽子焼けた肌夏を感じるひまわり畑

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 愛昔夢

見上げれば夜空に咲いた光る花それを見上げる私は笑顔

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 愛昔夢

梅雨明けの七色の虹空の橋いつか私も渡ってみたい

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 愛昔夢

見上げれば大輪の花咲き誇るしばし見とれし真夏の夜空

みなかみ町立月夜野中学校 2年 高橋 愛昔夢

夜空に自由に飛び交う蛍の色よくみていけば無数の美色

みなかみ町立月夜野中学校 2年 櫻井 拓夢

みなかみに流れ流るる利根川は白き美し幻のよう

みなかみ町立月夜野中学校 2年 清水 一登

青い空緑の上ではのびのびと遊ぶ子供は花のようだ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 春華

暑い夏赤い太陽あびてると焼けた肌がかがやかしい

みなかみ町立月夜野中学校 2年 阿部 春華

青空と雲も笑顔に海でらし海もかがやきみんなスマイル

みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 夢奈

小鳥の声毎日朝のご挨拶今日も一日頑張るぞ

みなかみ町立月夜野中学校 2年 原澤 夢奈

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

- じんじんとくる痛さに耐え走り続ける君は美しい
みなかみ町立月夜野中学校 2年 青木 空
- 青い空ぎらぎら照す太陽に夏を感じるひまわり畑
みなかみ町立月夜野中学校 2年 櫛淵 梨未
- そこだそこそこがいいぞと気持ち良く寝ている君は僕の飼いた猫
みなかみ町立月夜野中学校 2年 高柳 奏太
- あのころはさわれたカエルおいかける子どもたちは神(かみ)神(かみ)しや
みなかみ町立月夜野中学校 2年 高柳 奏太
- いそがしいああいそがしいと言う母は手足うごかさずなにしているやら
みなかみ町立月夜野中学校 2年 高柳 奏太
- 夏休み始まる時は楽しみだけど終わる頃には宿題の山
みなかみ町立月夜野中学校 2年 黒田 凜
- みなかみは自然豊かできれいな町水もおいしく空気はきれい
みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 輝
- 風なびきゆるゆる木の葉はゆうゆうと愚かな者より懸命だ
みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 裕規奈
- 君がいてそして僕がいる巡りゆくこの世界でやっと思つつけた
みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 裕規奈
- 心の傷体の傷たえゆく今何かを変えたい今でも思つぱかり
みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 裕規奈
- さよならとありがたうの気持ち入り混じり発した言葉は消え去りゆく
みなかみ町立月夜野中学校 2年 佐藤 裕規奈
- 君の写真見つめるたびに涙するいつからなのか思ひ出せずに
みなかみ町立月夜野中学校 2年 諸星 愛瞳
- 旅行時の眠り害するあの殺意いつそ奴らが永眠すれば
みなかみ町立月夜野中学校 2年 景山 蓮太郎
- ふるさとの我らを癒やすこのみどり
みなかみ町立月夜野中学校 3年 我妻 璃一
- 勉強の積み重ねこそ生きる道
みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 桔平
- みなかみ町はとてもとてもいい町だきれきれい山も川も
みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗
- 谷川岳ゆきがおおくて水きれい冬は真つ白夏は真つ黒
みなかみ町立月夜野中学校 3年 原澤 淳朗
- 夏終わる遊びすぎたな友達と
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 優雅
- 青春だ一度きりの中学校
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 優雅
- 谷川が白くなり出す秋終盤緑萌え出すはじまりの春
みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 百葉
- 盆すぎて涼しきか風のおいしさをすませば秋の虫かな
みなかみ町立月夜野中学校 3年 櫛淵 李桜
- 月光が届かぬ部屋のかたすみは真つ暗ぼつちのほこりと一人
みなかみ町立月夜野中学校 3年 佐藤 鈴生
- みなかみの誇り高きこの自然守り強くより美しく
みなかみ町立月夜野中学校 3年 塩野 玲奈
- 旅人もここみなかみに来てみれば感じるものもいつそう強く
みなかみ町立月夜野中学校 3年 塩野 玲奈
- 昨年とは全然違う羽衣を身にまといつてる大きな赤城山
みなかみ町立月夜野中学校 3年 田村 紗弓
- 汗流しもう立秋かと言ふ母とつかる温泉いつぶりだろうか
みなかみ町立月夜野中学校 3年 田村 紗弓
- 利根川に映る桃色舞う花冠麗かな春真つ只中
みなかみ町立月夜野中学校 3年 田村 紗弓
- じとじとと暑い夏今年は何をしたのさ
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 璃鈴
- 紅葉の葉涙の如くほろほろと赤黄緑の大峰山かな
みなかみ町立月夜野中学校 3年 林 莉央
- 笛の音とともに聞こえる利根川のせせらぎ深く大きく
みなかみ町立月夜野中学校 3年 林 莉央
- 夢色に儂く揺らいで消えてゆくみなかみ町の打ち上げ花火
みなかみ町立月夜野中学校 3年 林 莉央
- みなかみ多くの山々連なつて綺麗な景色が心を休める
みなかみ町立月夜野中学校 3年 金子 然土
- 川と山自然豊かなこの町は空気も綺麗で生きやすいです
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高井 真宙
- 窓越しに聞こえてくるのはセミの声夏が終われば鈴虫の声
みなかみ町立月夜野中学校 3年 伊藤 友利
- 暑い日は冷えたの食べよ涼しいよ
みなかみ町立月夜野中学校 3年 小野 つゆき
- 夏が来た熱中症にきをつけよ
みなかみ町立月夜野中学校 3年 小野 つゆき
- 梅雨時期はじめじめして違和感だ
みなかみ町立月夜野中学校 3年 小野 つゆき
- ふるさとの夏あおとおと晴れた空
みなかみ町立月夜野中学校 3年 川田 美空
- 外みると木々の変化があらわれる利根の春夏秋冬
みなかみ町立月夜野中学校 3年 齊藤 舞
- 谷川の頂上で食べるお弁当おもしろいお母のすがた
みなかみ町立月夜野中学校 3年 矢島 愛桜
- みなかみの自然あふれるこの大地パワー充電生きる源
みなかみ町立月夜野中学校 3年 湯本 真央
- 鈴の音も鳴り響く町みなかみは今日も静かに日が沈みゆく
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 元輝
- 春の歌夏の今でも褪(あ)せぬ曲流るる曲に遠き君想ふ
みなかみ町立月夜野中学校 3年 高橋 元輝
- 闇の中儂く淡い金の色ホタルの光綺麗だな
みなかみ町立月夜野中学校 3年 阿部 万夢
- 冬間近コタツの用意ワッセワッセ猫と一緒に休みなさい
群馬県立沼田高校 1年 阿部 佑哉
- みなかみで育てられた動植物好き嫌いなく食べましょう
群馬県立沼田高校 1年 井浦 信
- 秋風に乘せた想いは儂くて切なる想いも未だ届かず
群馬県立沼田高校 1年 市川 陸
- 河川岸きみと別れた帰り道緋色に染まり光る涙と
群馬県立沼田高校 1年 井上 優
- 雪景色家族と過ごす冬の日々春になろうと想い出溶けずに
群馬県立沼田高校 1年 岩崎 涼太
- 足を組み不敵に笑い睨めつける青空高く唯我独尊
群馬県立沼田高校 1年 金井 裕翔
- 白波の音なる景色想像す今の僕にはそれしかできず
群馬県立沼田高校 1年 木村 太洋
- 冬の朝ふとんに潜りまた二度寝起きて気づけばもう時遅し
群馬県立沼田高校 1年 久保田 善
- 腹の音食べても食べてもなりびびくこの音はいつ止まるのかな
群馬県立沼田高校 1年 栗原 光佑
- 月明かり畑のマルチが照らされて彼方の海と照らし合わせる
群馬県立沼田高校 1年 栗原 章剛

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

- 森の中入っていき帰り道方角分からず聞こえる声
 群馬県立沼田高校 1年 見城 夕貴
- あなたとの心の距離は近づけどどうしてあなたは遠くにいるの
 群馬県立沼田高校 1年 小林 壘
- 満月を親子が仲良く眺めてる暗い世の中明るい光
 群馬県立沼田高校 1年 笹原 琉星
- 別れようたった4文字色褪せる僕のどこが悪かったのか・・・
 群馬県立沼田高校 1年 佐藤 大介
- 冬練でつらい練習のりこえる限界越えて春をむかえる
 群馬県立沼田高校 1年 清水 康生
- 過去に行きたいと言った君ロマンありつつまた可愛し
 群馬県立沼田高校 1年 鈴木 麗央
- 教室で自分だけいるこの空間朝日に照らされ寝てしまふ
 群馬県立沼田高校 1年 須田 絢人
- 友達に負けたくないバット振るあいつにだけは負けたくないな
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 華翔
- 最近YouTubeにドハマリ沼にはまったホロライブ愛
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 勇喜
- 朝起きて外を覗けば真っ白に昨日見たのは夢じゃなかった
 群馬県立沼田高校 1年 田中 嘉人
- 冬の宿食事を済まし温泉へ雪が積もる露天風呂
 群馬県立沼田高校 1年 中村 和美
- 雪が降り一人でぼつと立っている気づけばもう真っ白に
 群馬県立沼田高校 1年 中村 和美
- 冬の朝静かに昇る太陽が雪の大地を輝かせる
 群馬県立沼田高校 1年 中村 和美
- 風吹くにつれ寂しくなる秋の山気づけばもう白黒に
 群馬県立沼田高校 1年 中村 和美
- スキーして転んで立ったら真っ白で再び転んで雪達磨
 群馬県立沼田高校 1年 中村 和美
- コロナの中やることないので勉強しようとするけど何もやらない
 群馬県立沼田高校 1年 根岸 晟榮
- 寒い日の室内でたくストープで睡魔に襲われ気づけば白紙
 群馬県立沼田高校 1年 根岸 晟榮
- あー寒い朝日が差しこむ一人部屋はがれる気のないふとんの地層
 群馬県立沼田高校 1年 根岸 晟榮
- あと少したわむれ始める男女達嫉妬で終わるクリスマス
 群馬県立沼田高校 1年 根岸 晟榮
- すれ違うあなたと私悲しみを乗り越え踏み出す希望の一步
 群馬県立沼田高校 1年 萩原 愛翔
- 友とゆく温泉旅行の一風呂は私の体温を温めて心も温まり友との絆深くなる
 群馬県立沼田高校 1年 林 壹楓
- なにもないそんな日がある毎日は遊びまくろう高校時代
 群馬県立沼田高校 1年 樋之口 巧秀
- 月曜日ふとんの中にこもる僕テスト返されるだから起きない
 群馬県立沼田高校 1年 方 榮 翰
- ありがとう ではないけれど気づけたよコロナで日々が幸せと
 群馬県立沼田高校 1年 星野 優大
- 明日から登校日だと思出し僕はゲームで現実逃避
 群馬県立沼田高校 1年 堀江 友裕
- 寝る前に雨がポタポタ降ってきた強くなるほど夢の中へと
 群馬県立沼田高校 1年 町田 翔輝
- 寒い日のキンキンに冷えた部屋の中筋肉刺激しあつたまる体
 群馬県立沼田高校 1年 丸山 颯大
- きれいだな山にかかったその雪が溶ける頃には桜の一番
 群馬県立沼田高校 1年 横山 風未
- 選手権高校男児が燃える冬のその背中には故郷の思い
 群馬県立沼田高校 1年 吉田 伶史
- 親戚に会いに行く道映る顔期待しながら寝顔撮られる
 群馬県立沼田高校 1年 永井 丈翔
- 本買って読みふけていたら深夜2時課題終わってないんです
 群馬県立沼田高校 1年 原口 海
- 事終えて安楽気楽羽伸ばすさりとて課題なお続くかな
 群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔
- スマホすら使うハードル天高く風に乗り散く白く黒い影
 群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔
- シルエツト坊主頭で銃片手雪に包まれ笑顔見せけり
 群馬県立沼田高校 1年 星野 暉翔
- 皆の為私のためにも保つ距離心の距離は保ったままで
 群馬県立沼田高校 1年 山田 新大
- もう冬だ今年もとうとうこの季節寒さに負けず恋に熱く
 群馬県立沼田高校 1年 安原 優葵
- 友達と行くはずだった旅行先来年こそは楽しく行くぞ
 群馬県立沼田高校 1年 竹之内 凌弥
- 気がつけば季節の変わり目なっているコロナと合わせて風邪予防
 群馬県立沼田高校 1年 長谷川 哲大
- 冬の中こたつに入り本を読みゆったり過す自分の時間
 群馬県立沼田高校 1年 米山 颯斗
- そよ風で花びらが舞う秋の姿哀しく消える秋の美しさ
 群馬県立沼田高校 1年 青木 陽向
- 全国の強者(つわもの)そろそろ甲子園勝てば天国負ければ地獄
 群馬県立沼田高校 1年 清水 光希
- 帰り道いつもだつたら見える夕日も見ることもなくなり冬を感じる
 群馬県立沼田高校 1年 井口 天紋
- 先輩のはげむ姿を追いかけて次の世代につなげていく
 群馬県立沼田高校 1年 野尻 蒼天
- 君が言う月がキレイとその夜はくもりの空で月はないのに
 群馬県立沼田高校 1年 尾澤 潤哉
- 春の日の雲ひとつない空の下小指に止まるとんとう虫
 群馬県立沼田高校 1年 石田 日向太
- 雪が降ると妹だけでなく猫もはしゃぐ
 群馬県立沼田高校 1年 井上 大椰
- 冬の夜心をあたためてくれる自動販売機
 群馬県立沼田高校 1年 大根田 捷秀
- 冬の時期空から落ちる白い雪これから寒いと冬の合図
 群馬県立沼田高校 1年 小原 佳樹
- 新しき季節の訪れ感じても心揺らぐも時は揺るがず
 群馬県立沼田高校 1年 笠原 凌馬
- コロナ禍で先行き見えず旅立った懐かしき友の活躍願う
 群馬県立沼田高校 1年 佐藤 秀
- 冬の夜送り迎える母の手に子どもを想うホットレモン
 群馬県立沼田高校 1年 唐木 俊介
- あと一点中三最後の大会は準決勝で悔しい思い
 群馬県立沼田高校 1年 砂山 温斗
- 恋の傷胸に残るは君の声夢の中にはまた君がいる
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 空楓
- 和歌を読み古人の思いが身に染みる感じる気持ちは同じものだな
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 空楓

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

迫り来る季節の変わりめ気がつくとも口も変わり未来が変わる
 群馬県立沼田高校 1年 武井 光輝

期待され努力努力と日々思う上辺なだけで何も得れない
 群馬県立沼田高校 1年 萩原 志道

雪国に積もる白雪冬情景美麗に輝く夜の月光
 群馬県立沼田高校 1年 松田 瑛太

人の声ただ鳴り響くただの音しかし時々心に響く
 群馬県立沼田高校 1年 宮内 翔太

冬の時期夏の格好走る朝寒さにふるえ足がもつれる
 群馬県立沼田高校 1年 宮崎 朝陽

朝の目がカーテンのすきからさしこんである一日が始まっていく
 群馬県立沼田高校 1年 目崎 大翔

早朝に電車にゆられ外ながめ赤い山に秋を感じる
 群馬県立沼田高校 1年 安原 佑真

真っ白な雪が降ってはもうすぐに辺り一面真っ白すぎる
 群馬県立沼田高校 1年 山田 理基

テスト前何故か出る謎の自信前日にだけ勉強し結果は赤点それが私の直すべきこと
 群馬県立沼田高校 1年 新木 雅人

笑顔を忘れたときは悲しみを忘れるよりも思いたすのは難しい
 群馬県立沼田高校 1年 板橋 享弥

文化祭全てつぶした例の菌僕の気持ちも共に年越す
 群馬県立沼田高校 1年 遠藤 陽斗

地変わるも見えるは同じ空の星気持ちも共に同じであれば
 群馬県立沼田高校 1年 遠藤 陽斗

両親は勉強しろと言っけれどそのまえにすぐ部屋をください
 群馬県立沼田高校 1年 大竹 瑛士

手洗いうがい消毒徹底し新たな日常コロナと共に
 群馬県立沼田高校 1年 小田橋 颯真

大会で結果を残し喜ぶが大空を見て恩師を思う
 群馬県立沼田高校 1年 貝瀬 優太

インスタで他校の人を見たならば中学校の友達を思う
 群馬県立沼田高校 1年 貝瀬 優太

利根沼田自然広がり山多き四方を見ても広がる緑
 群馬県立沼田高校 1年 金井 琉偉

一秒その一秒を大切に僕は一歩ずつ前に進むのだ
 群馬県立沼田高校 1年 木内 一歩

目が覚めて人生の一步を進み最後まで足を止めず
 群馬県立沼田高校 1年 木村 圭佑

気が付くと紅葉終わり朝寒く本格的な冬の始まり
 群馬県立沼田高校 1年 桑原 啓佑

つい最近別れてしまった恋人を自分が悪かったと思ひつづける
 群馬県立沼田高校 1年 後藤 稜弥

北風の冷たい風に吹かされてふと思ひ出すあの時の日々
 群馬県立沼田高校 1年 小林 夏葵

一人で相手探せと誰も得ずアハハと笑い枕をぬらす
 群馬県立沼田高校 1年 小林 夏葵

朝目覚めさあ起きようとふんばるがふとんのぬくもりそれをゆるがず
 群馬県立沼田高校 1年 小林 結人

疲れたと授業が終わり後ろ見る黒板残る明日の課題
 群馬県立沼田高校 1年 櫻井 虹太

現実とまんがの世界はちがいがいすぎ思った通りの恋はできない
 群馬県立沼田高校 1年 渋谷 蒼空

雪景色こごえる僕にマフラー手ぶくろ二つはハッピーセット
 群馬県立沼田高校 1年 鈴木 健斗

春になり夏になって秋冬と季節変わって楽し変わる
 群馬県立沼田高校 1年 鈴木 龍侍

お弁当毎回同じあきてきたけどおいしいいつもありがとう
 群馬県立沼田高校 1年 須田 奏太

リコーダーかじかんだ手で穴を押す苦勞する僕手を添える君
 群馬県立沼田高校 1年 関上 拓哉

食堂へ四時間目のチャイムが廊下に響くキーンコーンカーン
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 沈希

暖かな電車で揺られ駅を待ち到着したんだ見知らぬ地
 群馬県立沼田高校 1年 高橋 秀太郎

共学より男子校で楽しむことが一番の青春だ
 群馬県立沼田高校 1年 武井 亮大

低いトス余裕ない助走ボール来るふところ入ってきれいなカット
 群馬県立沼田高校 1年 田中 杏治

なんのその男に生まれて悔いはなし波に向って立つ獅子であれ
 群馬県立沼田高校 1年 田中 杏治

空高く舞いしイヌワシ堂々と王なる威厳を放ち飛びつづ
 群馬県立沼田高校 1年 田村 大翔

学校も課題も友もテストさえ全て忘れて二度寝する朝
 群馬県立沼田高校 1年 角田 拓磨

インスタで投稿みるとかわいいが現実とプリアンくちがう
 群馬県立沼田高校 1年 信澤 陽立

彼女できみんなに自慢気持ち良い気づいた時はベットのの上に
 群馬県立沼田高校 1年 花見 陽彩

懐かしい初心に戻るあの場所は仲間と過ごしたサッカーグラウンド
 群馬県立沼田高校 1年 平方 翼

日曜の夜に感じる憂鬱はいつになっても心は欠ける
 群馬県立沼田高校 1年 藤井 玲央

このチョコを返したいけれど毎日行う予行演習
 群馬県立沼田高校 1年 星野 翔飛

好きかも気づいた時には恋してるあなたの笑顔が忘れられない
 群馬県立沼田高校 1年 真船 睦大

毎日が退屈だった中学時代今となつては笑い話
 群馬県立沼田高校 1年 吉澤 樹

ご飯食べおかわりかさねまだ足りずたくさん食べる君が愛おしい
 群馬県立沼田高校 1年 吉野 悠矢

あてもなく夜中の道を散歩して寂しい夜を独りで明かす
 群馬県立沼田高校 1年 星野 隼

沼校で課題をしあげ帰宅する冬の十五夜見上げながら
 群馬県立沼田高校 1年 小田 照大

目を見つめ気持ちをさぐるコロナ期間本当の笑顔いつ見れるのかな
 群馬県立沼田高校 1年 南 蒼蠶

自転車で早朝ごろに家出れば刺す様な寒さきれいな空気
 群馬県立沼田高校 1年 戸丸 兼太郎

上に星下に霜に挟まれて眺めているのは背負われた幼子
 群馬県立沼田高校 1年 新木 篤博

誰か分かって聞かれて苦笑いひやくよんさいのおつきいばあちゃん
 群馬県立沼田高校 1年 入澤 知丸

お年玉ちょうだいおつきいばあちゃんこれで一回目だけどゆるしてね
 群馬県立沼田高校 1年 入澤 知丸

あの匂い母の実家でふとよぎる大好きだった祖母の笑顔
 群馬県立沼田高校 1年 宇敷 紘利

部活動繰り返す日々思いたし自信をつけて目指す勝利
 群馬県立沼田高校 1年 生方 安慈

- 「君がいる」そんな気がしたこの部屋もあしたが来れば「さよなら」だね
群馬県立沼田高校 1年 大金 直央
- 雲の上小さなからだのぬくもちに涙はあふれ笑みはこぼれて
群馬県立沼田高校 1年 大金 直央
- 果ての無いカオスくぐった早朝は「なんだったんだ？」も無限大なり
群馬県立沼田高校 1年 大金 直央
- 「会いたい」は君に届いているのかな？知らないふりをするカタルシス
群馬県立沼田高校 1年 大金 直央
- 冷え込んだ翌朝早く飲むココア悴んだ手が溶けるやうなり
群馬県立沼田高校 1年 大島 颯音
- 月欠けて見える景色に闇多く我が道照らす街灯探し
群馬県立沼田高校 1年 加藤 璃大
- 委員長アライド持つて着ているは誰も着てないクラスティーシャツ
群馬県立沼田高校 1年 加藤 璃大
- 元旦の年越し告げたその瞬間目標決める「来年こそは」
群馬県立沼田高校 1年 木内 理仁
- 疲れ切りまた繰り返し同じ日に始業のチャイムが今日も流れる
群馬県立沼田高校 1年 小林 優斗
- 古文のさ助詞とか助動詞かんべんしてよ見分けつかないわからねえ
群馬県立沼田高校 1年 園田 陽斗
- コミュ障が僕の告白邪魔をする十五回目のクリぼっち
群馬県立沼田高校 1年 園田 陽斗
- コロナ禍で楽しみ青春うばわれたこのくやしみは未来へ生かせ
群馬県立沼田高校 1年 高橋 乃也
- 同級生「彼女できた？」と聞いてくるが我は男子校夢も希望もなし
群馬県立沼田高校 1年 谷川 皓哉
- あの日から何度見たのか春の色今は高一成長を感じる
群馬県立沼田高校 1年 角田 朝陽
- 松風や我が帰りを待つ人へのちの世までも思ひ届けよ
群馬県立沼田高校 1年 角田 貴紀
- 永遠に我が恋心とかすまじ一の倉沢の雪のごとくに
群馬県立沼田高校 1年 角田 貴紀
- 中庭の隅に咲きたる桔梗は母校の息吹今日も告げるよ
群馬県立沼田高校 1年 角田 貴紀
- 「別れてほしい」のラインをもらった午後八時なお冷めぬ私の恋心
群馬県立沼田高校 1年 土井 翼
- 高い土地冬は寒くて夏暑く体調崩すの仕方ないよね
群馬県立沼田高校 1年 鳥羽 貴博
- 夜中に「ニャー」と鳴くねこがいる今日も静かにベッドに入る
群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗
- 夏の夜窓を開けて灯り消す嫌ほど聞いた蛙の声
群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗
- 友達と遊んだ後の夏祭り一人浸る祭りあと
群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗
- 寒すぎると言っても過言冬の日も君が居たからあたたかい
群馬県立沼田高校 1年 新飯田 琉斗
- 宝くじ一億当てたうれしな借金返済残り一億
群馬県立沼田高校 1年 西澤 駿希
- クリスマス雰囲気ばかりにながされてでかけてみればカッパルの群れ
群馬県立沼田高校 1年 野田 悠仁
- 始まるぞ定期テストという戦結果は天国はたまた地獄
群馬県立沼田高校 1年 萩原 大翔
- 今年こそ毎年そうは思うけど聖なる夜に今年も一人
群馬県立沼田高校 1年 羽鳥 光太郎
- クリスマス聖なる夜とか言つていて得をするのはリア充ばかり
群馬県立沼田高校 1年 深津 歩夢
- 雪の中友と一緒に乾杯た女はどこだクリスマスパーティー
群馬県立沼田高校 1年 山田 陸翔
- 冬の夜メガネがくもる帰り道まぶしい日が私をてらす
群馬県立沼田高校 2年 武田 侑士
- 冬の朝話すだび出る白い息言葉が白く見える時期かな
群馬県立沼田高校 2年 荒木 樹
- 風の音我らの肌に伝えにきさつと表す季節の変化
群馬県立沼田高校 2年 小野 貴路
- から風の赤城おろしの吹く風は冬の訪れ告げている
群馬県立沼田高校 2年 都丸 凌
- 窓の外ふと気がつけば紅の木の葉散りゆく冬の季節
群馬県立沼田高校 2年 相原 佳冨
- 隙間風今時寒くたえられん寝る時はまず窓を確認
群馬県立沼田高校 2年 角田 翔麻
- 冬の朝こごえて進む自転車朝日と月が照らす道行く
群馬県立沼田高校 2年 玉田 孝太
- 谷川に降りゆく雪も知らぬ間に街を流れる清流となる
群馬県立沼田高校 2年 黒岩 翔太
- 霜柱踏みつける音ザクザクと人の心はズキンズキン
群馬県立沼田高校 2年 宮本 琉希
- 空つ風群馬の土地に吹き荒ぶ冬の到来ここに告げたり
群馬県立沼田高校 2年 佐藤 綺星
- 夏祭り帰路の夜空に輝いた打ち上げ花火紅一点
群馬県立沼田高校 2年 石井 宥多
- 寒き朝カーテン開けて見た景色あたり一面銀世界かな
群馬県立沼田高校 2年 石井 宥多
- 風そよぎ緑染える水の里時が過ぎても変わらぬ姿
群馬県立沼田高校 2年 本多 翔湧
- 落ち葉はき地面を染める黄色の葉僕に知らせる冬のおとずれ
群馬県立沼田高校 2年 佐藤 慎之助
- すべきことコロナウイルスきつかけに普通の様子考え直す
群馬県立沼田高校 2年 南 享吾
- 秋の朝肌寒さにも少しなれ鼻にかおるは朝の匂いか
群馬県立沼田高校 2年 大竹 琉杜
- 早朝にかじかむ私のこの両手暖めながら行く通学路
群馬県立沼田高校 2年 白倉 広翔
- 冬やすみ外はまつしる雪景色家のこたつで箱根駅伝
群馬県立沼田高校 2年 小林 宇宙
- 冬の日に家族で団欒鍋つつき心温まる家族の会話
群馬県立沼田高校 2年 戸部 湧斗
- 雪が降り積もりし白にうつる光の美しさにはまさるものなし
群馬県立沼田高校 2年 湯浅 信乃輔
- しとしとと谷川覆う雪の笠見わたす一面ホワイトアウト
群馬県立沼田高校 2年 宮下 流綺
- 小窓から覗く景色の秋空は雲ひとつなく緑が映える
群馬県立沼田高校 2年 高橋 翼
- 夕暮れに目に映るのは秋の空少し悲しいすみれ色かな
群馬県立沼田高校 2年 高橋 翼
- 寒空に肌で感じる冬の影見上げた空に靡けな月
群馬県立沼田高校 2年 高橋 翼
- ちらちらと趣のある白い雪自分は家でこたつにみかん
群馬県立沼田高校 2年 渡辺 廉

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

- 北風がふいて散りゆく紅葉みて友と競って半袖で走る
群馬県立沼田高校 2年 吉原 大翔
- 寒い朝身心癒やす月見風呂ゆつくりつかって疲れをリセット
群馬県立沼田高校 2年 鳥島 碧人
- 山頂の見渡すかぎりの絶景も写真に納め家族へ送る
群馬県立沼田高校 2年 石田 涼大
- 夏の海静かに眺める水平線つらい事が頭から消える
群馬県立沼田高校 2年 木暮 涼希
- 感染者待てど暮らせど減らないが国の人々気にしなくなる
群馬県立沼田高校 2年 櫛淵 太一
- 夏祭りみんなの声が威勢よくそれに負けない虫の鳴き声
群馬県立沼田高校 2年 篠原 唯飛
- 夏の夜心に響く虫の声いつになっても同じだな
群馬県立沼田高校 2年 篠原 唯飛
- 家族とこたつをかこんでキムチなべさむいふゆこそあたためられる
群馬県立沼田高校 2年 勝見 真洋
- 冬の夜厚でのふとんにくるまつこたつの夢見てふとんけりはぐ
群馬県立沼田高校 2年 高橋 隆輔
- 夏休みいつもと違う夏休みまだまだコロナ続いていくね
群馬県立沼田高校 2年 石関 哲平
- 早朝に雪積もる谷川の山見て思う冬がきたよと
群馬県立沼田高校 2年 今泉 洗太
- 冬の夜寒さに凍える我が心暖を取りつつ心穏やかに
群馬県立沼田高校 2年 山西 綱斗
- 辛くても後ろを向かず前を見ろ下を向かずにしっかり生きろ
群馬県立沼田高校 2年 阿部 拓海
- イヤホンを外してみれば蝉の声を閉じながら自然を感じる
群馬県立沼田高校 2年 山口 聖天
- 計画も立てるだけ立てのろまる何もせず終わる休業期間
群馬県立沼田高校 2年 角田 智規
- コロナ禍でみんなで自粛乗り越えてコロナウイルス対策しよう
群馬県立沼田高校 2年 植田 慶治
- 秋の終盤もつれづれいついとき助けになるは仲間の拍手
群馬県立沼田高校 2年 永井 康太
- 空前のコロナに揺れる日本でも変わらず吹く風冬の訪れ
群馬県立沼田高校 2年 野村 康介
- 喧噪の中独り漱石と対面す書物の内に我を埋める
群馬県立沼田高校 2年 橋爪 美真
- 朝日さす水流れゆく滝の音雨も積もれば流れ荒ぶる
群馬県立沼田高校 2年 朝野 海音
- 冬の夜雲に紛れる月の光照らされる町いと賑やかなり
群馬県立沼田高校 2年 星野 至恩
- コンタクト入れようとしてもひらく口鏡の顔を見て笑う朝
群馬県立沼田高校 2年 星野 智祐
- 夏の日の燦々照りつける陽の下で白き球をさあ追いかけてよ
群馬県立沼田高校 2年 中村 陽大
- 冬の朝窓から見える武尊山白き姿は壮大である
群馬県立沼田高校 2年 中野 月翔
- 豪雪の寒さに怯える己が身の心は清く衣は厚く
群馬県立沼田高校 2年 深津 弘貴
- 初雪で舞い上がっていたあの頃に戻りたいのはあの人のせい
群馬県立沼田高校 2年 関矢 歩夢
- 家は立ち道は整い世は移りされど変わらぬ記憶の匂いよ
群馬県立沼田高校 2年 荒川 泰平
- 社会的距離がたとえはなれても心はいつもつながっている
群馬県立沼田高校 2年 木村 柊
- 雪積り吹雪も強く家帰る雪は変わりてすぎとおるかな
群馬県立沼田高校 2年 堀 諒丞
- 群馬ある日本で有名やきそばと世界で選ぶハーゲンダッツ
群馬県立沼田高校 2年 齋藤 春樹
- 目覚めるといつもと変わる肌寒さ暖かさ恋しい冬の季節
群馬県立沼田高校 2年 関 翔流
- 夏休み願いがもしも叶うならもう少しだけ延びてほしいな
群馬県立沼田高校 2年 加藤 翔太
- 枯れ葉飛ぶ冬の青空白あらずくらしい山山大きく映える
群馬県立沼田高校 2年 赤間 幹太
- 冬の夜ひとりで歩く街並みをにぎわいみればかなしみもあり
群馬県立沼田高校 2年 竹田 優希
- 雪見れば思い出されるあの姿勢しく思う二人の夜を
群馬県立沼田高校 2年 竹田 優希
- 雪月花椿に積もる粉雪は月できらめき深雪に映える
群馬県立沼田高校 2年 生方 章裕
- おいコロナとても楽しみにしてたのに早く返せよ修学旅行
群馬県立沼田高校 2年 栗原 佑青
- 身にまとう白き衣の谷川の溶ける雫は緑の恵
群馬県立沼田高校 2年 高橋 雅空
- 三月は日帰り旅行一度だけ勿論行くのはみなかみ温泉
群馬県立沼田高校 2年 新宮 光晴
- 増々と衰え知らず好奇心教えてくれる進むべき未知
群馬県立沼田高校 2年 新宮 光晴
- 氷上にテントが並ぶ湖に風雪ともに銀鱗つもる
群馬県立沼田高校 2年 信澤 正太郎
- おぼけ山人を呑みこみ魔の山と呼ばれどそこに敵わぬ魅力
群馬県立沼田高校 2年 真庭 啓一郎
- 故郷の特色魅せる四季の顔色濃きこと雅なり
群馬県立沼田高校 2年 関上 立
- 利根川で友と遊んだ真夏の日鳴り響くのはせみの鳴き声
群馬県立沼田高校 2年 渡部 終叶
- マイホーム失うのは時と気ばかり友に会うのは何時になるのか
群馬県立沼田高校 2年 増田 朝陽
- 沼田城支え続いた石垣の隙間につたと歴史ありけり
群馬県立沼田高校 2年 星野 優太
- 今日も利根を見守る雄大な天と地つなぐ河岸段丘
群馬県立沼田高校 2年 羽鳥 蓮
- 色変わり季節伝える四つ山に四面囲まれ光る街並
群馬県立沼田高校 2年 小野 涉真
- 立ち上がる七輪からの煙り満つ思いをはせるかのうちけぶり
群馬県立沼田高校 2年 平井 謙伸
- 夏休み休みというより夏地獄部活に課題逃げたいばかり
群馬県立沼田高校 2年 鈴木 望翔
- GoToで旅行楽しむ大人たち旅行にいけない私たち
群馬県立沼田高校 2年 鈴木 望翔
- 夕暮れの浜辺の中で潮風の匂いにつられ我返る波
群馬県立沼田高校 2年 七五三和輝
- 気がつけば半分の日が過ぎ去りしもう半分は遅くを望む
群馬県立沼田高校 2年 加藤 広樹
- 自販機の赤い光に吸いこまれ微糖のコーヒー十六の夜
群馬県立沼田高校 2年 倉田 和弥

- 朝靄で遠くでかすむ白い山雲と違えて白い雪かな
群馬県立沼田高校 2年 後藤 祐翔
- 秋ふけて赤き衣と白化粧山越え乾く妻と空風
群馬県立沼田高校 2年 小林 祈
- つゆおちて緑の大地なお強く山のつばきの赤華やかに
群馬県立沼田高校 2年 小林 祈
- 窓の外滾り流れる利根川で自由に群れて泳ぐ魚よ
群馬県立沼田高校 2年 生方 快
- 寒き夜明けて明るき窓見れば白き一面花嫁御寮
群馬県立沼田高校 2年 高野 義貴
- 汚くてくさい足ほど大好物我らの主治医ドクターフィッシュ
群馬県立沼田高校 2年 中村 元
- 手は寒く開けた電車のドアの先霜降る草木は私同様
群馬県立沼田高校 2年 長壁 俊弥
- 夕暮れに眺める台地河岸段丘秋風そよぐ紅葉とともに
群馬県立沼田高校 2年 吉田 尚史
- 時は過ぎ浮世は変わりゆくものの不変のものは厚き人情
群馬県立沼田高校 2年 新木 輝
- 雪どけに私と犬が踏みしめた足跡の横映えるふきのとう
群馬県立沼田高校 2年 荒川 祐次朗
- 群馬県知名度低い未開の地今立ち上げれグンマーたちよ
群馬県立沼田高校 2年 矢島 烈虎
- 雪景色大地をおおう白銀の子供は愉悦大人は惑う
群馬県立沼田高校 2年 荒木 通稀
- 木下闇言葉覚えて下に立つみんなみんな蝉の強き鳴き声
群馬県立沼田女子高等学校 2年 生方 令奈
- 通院のバスの窓から吹く風に初夏を感じて深呼吸する
群馬県立沼田女子高等学校 2年 生方 令奈
- 水田の水引き写る谷川の白き逆さの免峰楽しや
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- 利根川の流れの中にそびえ在る谷川岳に桜花のしぶき
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- 雨蛙声ききて舞う螢火やふるさとの匂い恋しき灯火
群馬県立沼田女子高等学校 3年 井上 和奏
- 寒くなり月光る中真つ暗で体ひきしめ今日も弓射る
群馬県立利根実業高等学校 1年 吉野 結音
- 綺麗だな夜道を散歩手を繋ぐ二人を照らすイルミネーション
群馬県立利根実業高等学校 1年 横倉 心夏
- 失恋の寒さはまるで冬の夜
群馬県立利根実業高等学校 1年 山田 慎之介
- 手のひらに寒さと恋のてんびんあり
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 薫
- ストーブにかざす手のひらやけどする
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 薫
- 冬の夜初雪降って寒さたえカイロを持って体温まる
群馬県立利根実業高等学校 1年 笛田 貴仁
- 秋の夜雲から顔出し光る空
群馬県立利根実業高等学校 1年 原澤 寧苑
- クリスマス子供達とサンタさんに一度の幸せな日
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- みかんむきコタツにもぐりみかん食べ昼間の時間にお昼寝タイム
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 一人の子最強のクラスあらわれて一人が二人友達増える
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 手どうしのしわを合わせて幸せで体を合わせ幸せ共有
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 天才は知らない所で努力をしばぶんだけが努力忘れる
群馬県立利根実業高等学校 1年 林 宏樹
- 寒い冬コタツストーブ落葉焚初雪降って寒さ忘れる
群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 颯汰
- 冬の朝凍る手のひら温めて窓の外には白い世界
群馬県立利根実業高等学校 1年 南雲 颯汰
- テスト期間机で勉強していたらいつの間にか片手にスマホ
群馬県立利根実業高等学校 1年 片山 樹
- 雨の中君と帰る帰り道どんなに冷えても心は冷めない
群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 華耶奈
- 電話ごし君の声が愛しくて早く時間が経てばいいのに
群馬県立利根実業高等学校 1年 平井 華耶奈
- 高身長ハイスベックは大前提いつか私も幸せに
群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 くるみ
- 青春の遠のいていく思い人心が痛むあなたの言葉
群馬県立利根実業高等学校 1年 長谷川 美奈
- クリスマス君と過ごした聖の夜一生一度の最高の思い出
群馬県立利根実業高等学校 1年 井熊 愛琉
- 俳句より短歌のほうが難しい特に文字数多い所が
群馬県立利根実業高等学校 1年 牛尾 頼士郎
- 朝の時間とても眠くてつらいけど今日も一日頑張ろう
群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 寧音
- 17年愛犬と過す毎日ほとんど癒されとても幸せ
群馬県立利根実業高等学校 1年 眞庭 菜月
- 秋の山日びかわつてく木の葉の色とてもうつくし秋の紅葉
群馬県立利根実業高等学校 1年 桑原 直樹
- 恋愛は勉強より難しくとても尊い青春の日々
群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 直人
- 冬の朝冷える手のひら温める地面見たら白い道できる
群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 楓真
- 帰り道冬空に輝く小さな光りキラリと流れた小さな幸せ
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 蓮
- 諏訪峡の木々の色づく時なれば山の頂白くなりけり
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- 風景を写真に残す良き日々は四季の変化を強く感じる
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- 山頂に雪がかぶれば来る冬季車のタイヤ変えるときかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 尾崎 聖凌
- 雪合戦玉のスピード上がりつつ相手の気持ちも上がりつつ
群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 律輝
- みんなで話して楽しく遊ぼうよたまにはみんなでないかもよ
群馬県立利根実業高等学校 1年 大塚 悠真
- 温泉に入りになかなかみ行つたとさ心も体もポカポカだ
群馬県立利根実業高等学校 1年 東 聖也
- まどの外山をながめてみてみると緑の山がいろんな色に
群馬県立利根実業高等学校 1年 狩野 流星
- 夏暑し涼し求めて旅するがたどりつくのはラーメン店だね
群馬県立利根実業高等学校 1年 飯塚 拓海
- 身一つで強敵挑むその姿まさしくそれは白き鬼かな
群馬県立利根実業高等学校 1年 稲垣 寛太
- いち面がしろくきかざられいっぺんし木々がはだかできむぎむしい
群馬県立利根実業高等学校 1年 鎌塚 海莉

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

冬の朝友と一緒に登下校寒さ強まり手足かじかむ

群馬県立利根実業高等学校 1年 田川 通果

クリスマス誰と過ごすか考える答えは一つ家で家族と

群馬県立利根実業高等学校 1年 山戸 咲理紗

近づく寒さと距離はとおしく手袋とり合う恋物語

群馬県立利根実業高等学校 1年 鶴淵 礼菜

肌寒い君の温もり感じたい私の一番大切な人

群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 純菜

初冬の雨がバラつく真夜中に逝ってしまった大切な人

群馬県立利根実業高等学校 1年 諸田 祐菜

甲子園スタンドからの熱き思い期待を胸に白球を追う

群馬県立利根実業高等学校 1年 増田 琉生

指先が凍える程の帰り道笑って帰れば温まる

群馬県立利根実業高等学校 1年 治田 璃実

冬の朝寒いはずが暖かい母に感謝を忘れない

群馬県立利根実業高等学校 1年 治田 璃実

なぜだろう今年の冬も寂しいなぜならとなりがいないから

群馬県立利根実業高等学校 1年 山崎 ひなた

秋終わり冬に変わればクリスマスお正月もあともう少し

群馬県立利根実業高等学校 1年 長沼 光来

学校で寒さ対策膝かけを足に巻き付け温める

群馬県立利根実業高等学校 1年 新島 颯汰

十二月近づいてくる最後の日また会える日を待ちわび手を振る

群馬県立利根実業高等学校 1年 塗木 優花

忘れない部活帰りの手の温もり別れてもなお思い出し笑顔

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 楓佳

大好きだよネットですつながるありがとう遠き君から伝わる心

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 楓佳

この空間君との時間不安だな終わってしまう君との約束

群馬県立利根実業高等学校 1年 中村 楓佳

休みの日部活動と手伝いで休むことができなかったよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 悠唯

学校に行くのはとてもつかれるが将来のために今日も頑張る

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 悠唯

遊園地水族館にも行きたいと暮る思いも空回りして

群馬県立利根実業高等学校 1年 林 日奈葵

冬休み君と行きたいスキー場考えてると体が火照る

群馬県立利根実業高等学校 1年 井上 翔太

冬感じる冷たい風に吹かれれば枯れ葉とともに湯船に浸かる

群馬県立利根実業高等学校 1年 柴村 柊羽

羽根を打ち目指すは勝利一番に悔いのないよう全力プレー

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 崇久

帰り道夜風にあたり空を見る明日は良い日になればいい

群馬県立利根実業高等学校 1年 鈴木 崇久

超ねむい授業中でも寝てしまおう改善するは睡眠時間

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 薫

朝起きて時刻が6時まだ大丈夫と二度寝する

群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 空

コココーラ部活の後に飲んでみたらいつも以上においしかったよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 綿貫 陽太

温泉をおわったあとに飲む牛乳とても安くてまじ最高

群馬県立利根実業高等学校 1年 綿貫 陽太

コソコソと練習はげむ部活動絶対行くぞ夢の舞台へ

群馬県立利根実業高等学校 1年 茂木 大空

新緑は夏を感じる景色だな暑さに負けずがんばる部活

群馬県立利根実業高等学校 1年 茂木 大空

夏休みプールで泳ぐ友達とまた行きたいなゴーグルつけて

群馬県立利根実業高等学校 1年 保坂 尚永

昼休みあつという間に流れて終わりまた授業かめっちゃだるい

群馬県立利根実業高等学校 1年 保坂 尚永

わが町はホタル飛び交う窓の外かすかに見えるホタルの光

群馬県立利根実業高等学校 1年 丸山 修羅

暑い中みなで流した汗なみだみなで目指す県優勝

群馬県立利根実業高等学校 1年 丸山 修羅

毎日の食事でもとうとう栄養をそとしてつくる元気な体

群馬県立利根実業高等学校 1年 原澤 英佑

梅雨が去り暑い日々がやってくるすずしくなつて

群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 拓海

昼飯にカップヌードル作って食べるおいしいな

群馬県立利根実業高等学校 1年 今井 拓海

少しづつかれはが落ちて夏終わる

群馬県立利根実業高等学校 1年 小沼 茉実

冬がきて風がつめたく耳赤し

群馬県立利根実業高等学校 1年 小沼 茉実

追われてる時間と宿題すぐそこに繰り返す日々心休まず

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 貴大

遊びたい毎日眠ってゲームしてそんな毎日送ってみたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 貴大

夏の夜うちわを取って耳すますかすかに聞こえる秋の訪れ

群馬県立利根実業高等学校 1年 倉澤 王我

閉めても窓から入るセミの声を過ぎれば鈴虫の声

群馬県立利根実業高等学校 1年 倉澤 王我

顔見えず名前も知らぬ友人と旅をし目指すは天への帰還

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 美結

万傘の下から覗く狐面きりに消えゆく狐の嫁入り

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 美結

夏休みあつという間に過去つて気づけば残る厄介事

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 悠河

朝起きて校門通り部活動放つ矢先は知らぬところへ

群馬県立利根実業高等学校 1年 角田 悠河

あの姿見る度思う愛しさに心奪われ無我夢中

群馬県立利根実業高等学校 1年 宇洞 和隼

球児の夢いつか立ちたいあの舞台仲間と共に日々練習

群馬県立利根実業高等学校 1年 宇洞 和隼

梅雨が去り暑さが来れば台風が忙しすぎてびっくりするな

群馬県立利根実業高等学校 1年 荻野 煌晟

暑い夏汗水垂らし頑張ったあつという間にもう冬だ

群馬県立利根実業高等学校 1年 荻野 煌晟

雨降っていつもと違う群馬の川勢いあれど色鮮やかに

群馬県立利根実業高等学校 1年 唐澤 将輝

「徹夜だぞ」張り切る友のメッセージそれを境に途切れる反応

群馬県立利根実業高等学校 1年 唐澤 将輝

友達にどこか行こうと立てる予定部活は合わず過ぎゆく時間

群馬県立利根実業高等学校 1年 唐澤 将輝

暑い仲間とともに練習だきついときこそおぼかになろう

群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 紘弥

努力する言葉だけで終わってない？言ったからにはしっかりやれよ

群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 紘弥

閉めてても窓から入るセミの声夏を過ぎれば鈴虫の声

群馬県立利根実業高等学校 1年 櫛淵 虎太郎

見渡せば緑豊かな大自然心癒されおちつく時間

群馬県立利根実業高等学校 1年 櫛淵 虎太郎

夏あつし部活に打ち込み汗をかき肌身を感じる日差しの良さ

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 心

あの姿見る度思う愛しさに心奪われ無我夢中

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 心

帰り道視線の先で猫倒れ虚しく思う一つの生命

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 心

電龍の声を聞きしは思ふける白き粉ふり年終る

群馬県立利根実業高等学校 1年 小岸 相夢

朝起きた時計を見たらもう10時ゲームもできず部活もちこく

群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 優太

バスケットみんなで声をかけあつてパスを回してシュートを決める

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 陽大

お父さん毎日仕事ありがとうぼくも見習い将来生かす

群馬県立利根実業高等学校 1年 見城 陽大

日の本の心に流れるその血潮そのもとななる私達の町

群馬県立利根実業高等学校 1年 茂木 りさ

友人と毎日帰る帰り道くだらぬ事を話して歩く

群馬県立利根実業高等学校 1年 茂木 りさ

夕方に一人で帰る帰り道ふと見上げると絵のような空

群馬県立利根実業高等学校 1年 茂木 りさ

真夜中にふとんの中で電話してうたた寝しつ問題解決

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 詩織

暑い夏一人で帰るこの道に別れた友のおもかげをみた

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 詩織

じんわりと汗をかきつつ弓をひく先輩の背にあこがれをみる

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 詩織

初めての目にきんちようしつ前にでる紙を見ながら大きな声で

群馬県立利根実業高等学校 1年 小林 詩織

帰り道今日もだめだと自分攻め明日に期待と言ひ聞かせる

群馬県立利根実業高等学校 1年 中澤 勇斗

試験日が来るな来るなと願つてもいよいよ明日とあせる前日

群馬県立利根実業高等学校 1年 中澤 勇斗

かっこつけおごりまくつた帰り道さいふはからっぽ君はえが

群馬県立利根実業高等学校 1年 田中 康太

なんでだろ君を見てるのにあなたの目はあの子ばかりでもう見たくない

群馬県立利根実業高等学校 1年 関根 愛粧

帰り道行きがパラパラ降ってきた私の隣君がいいかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 七海

白銀の世界に二人傘の中君のぬくもり肩で感じる

群馬県立利根実業高等学校 1年 池田 思奏瑠

通学路私専用ガードマンずつと隣にいて下さい

群馬県立利根実業高等学校 1年 白井 そら

夏休み蝉の声聴き思ひ出す君と笑つたあの夏を

群馬県立利根実業高等学校 1年 関 優羽奈

ぬくぬくと手足にからまる温かさなかなか私を離さない

群馬県立利根実業高等学校 1年 金井 沙良

物事にできない自分いやになる逃げたくなるが向き合おう

群馬県立利根実業高等学校 1年 大山 歩美

帰り道みんなとわかれ二人きり緊張しすぎ流れる沈黙

群馬県立利根実業高等学校 1年 菜原 真花

雪降れば幼き思い出よみがえる赤いほつぺと白い息

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 綾華

校門で部活終わりの君を待つこれから始まる二人の時間

群馬県立利根実業高等学校 1年 川端 眞羽

何気ないあなたの優しさ届いてる私の気持ちも届きたい

群馬県立利根実業高等学校 1年 川合 菜々海

冬空にキラリと輝く流星群まるで私の恋心

群馬県立利根実業高等学校 1年 竹沢 夕日

こたつ好き眠くなる寝てしまつて母におこられげん悪

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 佑奈

購買の前に集まる人を見てこれかと感じる高校一年

群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 楓

流れ星何度も思う君が好き君のとなりはもう願えない

群馬県立利根実業高等学校 1年 暮目 香果雅

夏過ぎて冷たい風がはだなでる辺りは紺に染まりゆくなり

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 彪雅

帰り道風にふかれて寒いねと言葉交わして頬染まりけり

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 彪雅

緑から紅や黄色に染まる葉と共にただよう秋の香なり

群馬県立利根実業高等学校 1年 小野 彪雅

黒色の制服着なれたその姿青い風吹かせ君想ふ我

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 希咲

澄みわたる静けさの中響かせる風の歌声心地よい秋

群馬県立利根実業高等学校 1年 高橋 希咲

すみわたる山々の中見つけるは美しき花己のまこと

群馬県立利根実業高等学校 1年 大澤 柚香

紺色と三年ともに日々歩み光かがやく卒業生

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 結葉

四つの季過ぎ去つていきこれからもとなりであるくコロナウイルス

群馬県立利根実業高等学校 1年 生方 結葉

部活動中学よりもけた違いで行くので精いっぱい

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 将義

夕ぐれの日数短い冬がある夏は暑けど冬は寒けり

群馬県立利根実業高等学校 1年 石田 将義

夕暮れに紅映える彼岸花ゆれる姿も美しきかな

群馬県立利根実業高等学校 1年 清水 ありさ

みずたまり空を映し広がる波紋映る景色に引き込まれそう

群馬県立利根実業高等学校 1年 清水 ありさ

人の声信号の明かり花のにおいなくてはならぬ人のたしなみ

群馬県立利根実業高等学校 1年 武井 由萌香

腹へつた食べ物見るたび手が伸びる食べすぎ注意た食欲の秋

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 瑠菜

秋になり冷たい風に起こされる眠気に負けた生徒達

群馬県立利根実業高等学校 1年 加藤 瑠菜

十五夜で月よりだんご笑つてた今では月を見るひまもなく

群馬県立利根実業高等学校 1年 井口 玲桜

紺色の姿になつて歩く今去年の冬と何かが違う

群馬県立利根実業高等学校 1年 井口 玲桜

紺色に身を包まれて秋がきた身や心にも秋に染つた

群馬県立利根実業高等学校 1年 織田澤 果凛

秋なれば日が早く落ち暗くなる夏夜の明恋しくなる

群馬県立利根実業高等学校 1年 織田澤 果凛

月みれば思ひ出される恋のこと君を思えば心切ない

群馬県立利根実業高等学校 1年 五島 玲奈

帰り道一人で見上げた秋の山夕日に染まり輝いている
群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 雪乃

十五夜の月に浮かぶもちつきの下でいただく白玉団子
群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 雪乃

衣替え染まり始める紺色の衣服を身につけ今日も始まる
群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 雪乃

秋の風吹けば吹くほど体感するじよじよにせまる中間テスト
群馬県立利根実業高等学校 1年 猪熊 雪乃

会えぬ日に空を見上げて君思う今日も月がきれいですね
群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 美夢奈

紺色へ景色とともに変わる服感じはじめの秋の訪れ
群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 美夢奈

笑い声君といるときたんないよだからこそ夜がさみしく感じる
群馬県立利根実業高等学校 1年 新木 美夢奈

秋の風冬来たる風まざりゆくさむい風ふき秋の終盤
群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 朱葉

紺色のブレザー多くなるこの時期はさむくなるなり秋も終盤
群馬県立利根実業高等学校 1年 阿部 朱葉

衣替え新しい服着なれないそれもなぜだ嬉しい気持ち
群馬県立利根実業高等学校 1年 後藤 未羽

紺色のブレザー重い大変だでも助かるブレザー最高
群馬県立利根実業高等学校 1年 笠原 瑠々花

夏終えて冷え込んできた早朝に祖母が作ったお茶が美味い
群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 蘭

衣替え白いシャツから紺色に変わりゆくの季節目だと知る
群馬県立利根実業高等学校 1年 須田 蘭

空見上げ一人さびしくたださんぽ手をさしのべる友達家族
群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 美希

夏すぎて季節が変わり花かわりだんだん変わる人の心も
群馬県立利根実業高等学校 1年 佐藤 美希

十五夜の月見て思ふ君の顔澄みわたる空いと恋しかな
群馬県立利根実業高等学校 1年 関 姫愛

秋色に染まる東空見上げれば雲ごとく浮く初夏の思ひ出
群馬県立利根実業高等学校 1年 関 姫愛

夕暮の空の下には二つ影紺と黒の背明るく染まる
群馬県立利根実業高等学校 1年 関 姫愛

見上げれば夜空に輝く満月が明日になればまた変わりゆく
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 愛斗

風吹きて響く音にもうすぐまり一人寂しく帰るその道
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野入 まな

美しき冬でも咲いたその花は君という名の笑顔だろうか
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮野入 まな

冬の夜二人きりで歩いてた君が好きだと告白をする
群馬県立利根実業高等学校 1年 羽賀 太一

幾度も君が笑うと苦しくてこの気持ちの名はなんですか？
群馬県立利根実業高等学校 1年 藤ノ木 涼夏

「寒いね」と微笑む君がいとしくて懐炉みたいにあつくなる頬
群馬県立利根実業高等学校 1年 西尾 和花

みかん食べこたつをかこむ夕食後体はポカポカ心はほっこり
群馬県立利根実業高等学校 1年 間嶋 美結

霜柱はしゃぐ児童に笑みこぼれ六年前の自分と重ねる
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 優里華

かかと上げ踏まないように歩いたが目の前すでもみじの絨毯
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 優里華

温泉の浸かるひととき幸せの夜空見上げるプラネタリウム
群馬県立利根実業高等学校 1年 中林 花恋

手をこする寒さにふるえる彼女の手そと優しくポケットの中へ
群馬県立利根実業高等学校 1年 中林 花恋

夢に見る彼とともにいることをだけど彼は漫画のなか
群馬県立利根実業高等学校 1年 中林 花恋

手ぶくろの温かさ知る初冬に恋も始まる彼と一緒に
群馬県立利根実業高等学校 1年 中林 花恋

雪積り種が我慢し春を待つ春の楽しみそれまで辛抱
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 琥太郎

帰り道白い息を吐きながら立ち止まり見上げた空に輝く冬北斗
群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優衣

春の日に君と歩いたこの道を君思い一人で歩く君が恋しい
群馬県立利根実業高等学校 1年 横坂 優衣

冬の夜空見上げると光つてる一番好きな冬の星たち
群馬県立利根実業高等学校 1年 三浦 真綾

蝉の声隣で笑う君はどこ戻らない日々願ひ続ける
群馬県立利根実業高等学校 1年 水越 万葉

隣見ればハンドルにぎる得意気にはにかむ君を目にやきつける
群馬県立利根実業高等学校 1年 水越 万葉

恋に落ちたあなたがあまりにもすてきだからの気持ちう伝えよう今日も遠くから眺める日々
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 美花

コロナ禍の外出自粛で腕をあげるよスイーツ作り大気分になる体重増加
群馬県立利根実業高等学校 1年 戸丸 美花

寒い冬布団の中でうすぐまり冬の虫のミノムシのよう
群馬県立利根実業高等学校 1年 丸山 未夢

授業中ヒーターの風こちよく夢の中へととけていく
群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 乃々香

朝起きてふとんの外は別世界あと5分だけあと5分だけ
群馬県立利根実業高等学校 1年 藤井 乃々香

君が好きこの言葉だけ言えなくていつになつたら言えるのかしら
群馬県立利根実業高等学校 1年 星野 心晴

帰り道一人静かに歩いても耳をすませば君の足音
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 美咲

晴れた日の夜空見上げて冬北斗となりではまだ探してみたい
群馬県立利根実業高等学校 1年 宮田 美咲

空を切る鳥を横目に背中見てこぼれた涙届かぬ思い
群馬県立利根実業高等学校 2年 齋藤 美紗希

木枯しと赤い夕日西の空地の影は大きな背伸び
群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 亮斗

学んでも誇るに足らず学んでは夜さえ忘れ朝さえ来たる
群馬県立利根実業高等学校 2年 芳野 成海

冬の夜に手と手をつなぎ初恋のなかの高嶺よ恋の花びら
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 愛翔

テスト前勉強しようと思つてもやる気が出ない今年の冬
群馬県立利根実業高等学校 2年 千明 航

山白く空は青々息白く冬のおとずれ雪はふるかな
群馬県立利根実業高等学校 2年 伊藤 神威

霜の時期寒くなつたなこの時期は季節の変わりめ冬に近ずき
群馬県立利根実業高等学校 2年 江連 雄大

ざくざくと上を歩くと音がする今年も積もつた白い雪
群馬県立利根実業高等学校 2年 千喜良 孝太

霜月の風を受けつつ眺めるは雪化粧した白き谷川
群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 颯介

冬の時期外は寒いが中暑い季節の変わりめ風邪引きやすい
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 稜馬
 秋冬あり冬に近づく寒くなる今年もあとのこり一ヶ月
 群馬県立利根実業高等学校 2年 諸田 光祐
 僕たちは将来に向かう若者だつらいことものりこえよう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 津久井 陸翔
 ふと見れば頭を白く染めている冬の訪れ知らせる谷川
 群馬県立利根実業高等学校 2年 笹木 捺生
 道見ると落葉黄色と赤色に秋の終わりと冬の始まり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 古橋 悠斗
 冬の朝外出てみれば景色かわり白いカーペット長く続いて
 群馬県立利根実業高等学校 2年 星野 明利
 紅葉散る悲しき想い心留め来たる季節に挨拶をする
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小倉 楓喬
 夏の夜すずむためにと散歩する蛍の光闇に輝く
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小菅 弥来
 霜がおり真つ白になった家の庭霜柱連なり歩いてみた
 群馬県立利根実業高等学校 2年 清水 璃音
 朝起きて外みてみると白い山今日も一日寒いだろうな
 群馬県立利根実業高等学校 2年 眞庭 三希也
 秋終わり紅葉が枯れてさびしいな奥から近づく冬の景色
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山後 柊也
 登校時北風が吹く寒い朝冷えた両手をポケットに入れて
 群馬県立利根実業高等学校 2年 清水 厚志
 薄暗い夜空に輝く星々がまるで私達人間のよう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関上 颯太
 月明かり照らし行く先希望の丘
 群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 創太
 扉開け見える景色は銀世界
 群馬県立利根実業高等学校 2年 吉野 創太
 寒き日に降り積もる雪みなかみに長ぐつはいてひと仕事かな
 群馬県立利根実業高等学校 2年 木村 優斗
 みなかみの温泉入ってポカポカにやはり最高みなかみ温泉
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小林 陸虎翔
 思うんだ友達見るとこみあげる親しき中にも礼義ありだろ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 編貝 雅真

山中に鳴り響くはセミの声今年もきたか収穫のとき
 群馬県立利根実業高等学校 2年 伊藤 昭一
 谷川に積もる雪みてふと思つ気づけば終る二〇二〇
 群馬県立利根実業高等学校 2年 金古 隼弥
 道端に咲く雑草はふまれてるそれでも名前はそれぞれある
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関口 蒼生
 田舎町年に一度のお祭りがコロナでなくなり活気もなくなり
 群馬県立利根実業高等学校 2年 戸田 貫太
 冬空に光り輝く星たちは世界の景色学び旅する
 群馬県立利根実業高等学校 2年 戸丸 夢有人
 冬の空谷川彩る雪化粧寒さ厳しき冬の訪れ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 横坂 莉来
 最近寒くなってきた朝起きた時ふとんからでないいつも怒られる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 心乃花
 クリスマスもうすぐくるねクリスマスコロナをなくしてさんたさん
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 心乃花
 期末前1日前から焦せりだす危機感のなき前からすればよかったな
 群馬県立利根実業高等学校 2年 田中 心乃花
 昼休み仲間と食べるお弁当青春感じ残り一年
 群馬県立利根実業高等学校 2年 鶴淵 ゆかり
 クリスマス手紙をかいたよサンタさんだかなぜだろう家には来ず
 群馬県立利根実業高等学校 2年 高橋 菜々子
 今までの恋愛曲は数知れず悲しきだけが募るや募る
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関上 和真
 水の呼吸何かをこぼすとそれを言う父の言いわけ心は風で
 群馬県立利根実業高等学校 2年 関上 和真
 霜おりてここえるような寒い中長距離走の体育がムリ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 本多 夢来
 冬になりこたつを出すよねこが来ててもぞもそ入りぬくぬくしてる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 深代 麗蘭
 目が覚めて私を包み離さない誘惑に負けまた夢の中
 群馬県立利根実業高等学校 2年 福島 愛穂
 朝早く散歩へ出かけ気分よし心も体も健康的だ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 南雲 慈苑
 我が家族一番早く起きるのはおなかのへつたとら猫2匹
 群馬県立利根実業高等学校 2年 岡谷 李乃

世界中渦にまみれたこの世の中回復目指すもまだまだ先だ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石井 望愛
 一人でも楽しめるのはゲームなど暇つぶしに集中してる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石井 望愛
 持久走どうしてするか分からないただ苦しいはやくやめたい
 群馬県立利根実業高等学校 2年 入澤 美月
 去年からコロナが流行り出掛れず毎日家でコタツにもぐる
 群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 千聖
 コロナ禍にコロナ太り最悪だユーチューブ見てダイエツとする
 群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 千聖
 コロナ流行り学校行事無くなって修学旅行一番の思い出
 群馬県立利根実業高等学校 2年 後藤 千聖
 本当の心が欲しい青の街冬の光をあたたためるため
 群馬県立利根実業高等学校 2年 石田 侑亜
 ひざの上猫が寝ている寒い冬足がしびれて無理やりどかさ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 萩野 菜雪
 家を出て朝一番に雪山を帰ってきたら夕焼けを見る
 群馬県立利根実業高等学校 2年 松井 美希
 進路決めどの道選べばいいんだろうやりたいことか向いてることか
 群馬県立利根実業高等学校 2年 小田島 亜弥
 あの山の大きな背中いつみても変わらずぬ風影一安心
 群馬県立利根実業高等学校 2年 日向 玄也
 あこがれのポケモンマスターになりたいいぜつたになれないなあ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 林 佳宏
 パンポンクラッシュポツポツングルメスパイザーうまそう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 林 佳宏
 谷川岳ふとした時に見てみれば白い山頂冬のおとずれ
 群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 夢登
 寒くなり朝から出てる白い息高校生も静かな朝
 群馬県立利根実業高等学校 2年 藤井 夢登
 冬の朝「ほっ」と息つき空見上げ青いキャンパス白い雲
 群馬県立利根実業高等学校 2年 立木 愛梨
 帰り道坂を下ると無数の花今年の冬のイルミネーション
 群馬県立利根実業高等学校 2年 立木 愛梨
 朝起きてぼーとしてるとおもいだす嬉しかったこと切ないことも
 群馬県立利根実業高等学校 2年 山崎 愛梨

紅葉に埋もれる彼女の制服は何より僕の視線を奪う
 群馬県立利根実業高等学校 2年 竹内 乃愛

美しい伏せたまつ毛の作る影瞳は何を映すのだろう
 群馬県立利根実業高等学校 2年 竹内 乃愛

会議室入社試験の面接で全力でアピールする朝
 群馬県立利根実業高等学校 3年 峯川 彩音

日が沈みマフラー巻いて君を待つ手にもつコアはまだ冷めきらず
 群馬県立利根実業高等学校 3年 青木 美優

街中で賑わうお店目に止まるもう忘れようあの頃のこと
 群馬県立利根実業高等学校 3年 青木 美優

冬の朝夢から醒めて枕元まだ平気だと再び夢へ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 林 雅斗

前歩く父の制服汚れてるかっこいいと少し思えた
 群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 円香

空は青地面は白にそまりゆきぢちらの光も輝き続ける
 群馬県立利根実業高等学校 3年 本多 稀羽

おやすみと毛布にくるまり十秒後もうスヤスヤと寝息を立てる
 群馬県立利根実業高等学校 3年 本多 稀羽

雪降るところこえて眠るうちの犬なのに散歩は欠かさない
 群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 若菜

朝おきて外みわたせば銀世界足跡つける通学路
 群馬県立利根実業高等学校 3年 井上 若菜

友として忘れはしない君のこと元気で行ってさよならと言おう
 群馬県立利根実業高等学校 3年 長谷川 昂太

青い空水面が揺れるその時に羽を広げた白鳥の群れ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮野人 あや

始まりと終わりを知らず初雪がしみる肌には喜々とした声
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮野人 あや

仲間との思い出残る我母校決して忘れぬ心の奥に
 群馬県立利根実業高等学校 3年 和南城しずく

愛犬が窓の外見てしつぱ振り共に外出て雪遊びする
 群馬県立利根実業高等学校 3年 郷原 伯

雪達磨作ってもらえた嬉しさも日が差し次には水溜まり
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 聖和

空見上げ初雪喜ぶ君の顔見れるといいなまた来年も
 群馬県立利根実業高等学校 3年 井口 彩萌

受験日の前夜に祈った合格を叶えられるか頼むぞテスト
 群馬県立利根実業高等学校 3年 見城 杏実

友達と日向を取り合う冬の朝いつもの日常幸福の時間
 群馬県立利根実業高等学校 3年 船橋 茉由

遅かった冷えた体で歩く帰路足どり重く初雪が降る
 群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 涼大

布団にて母と格闘一時間親孝行だと考え寝る僕
 群馬県立利根実業高等学校 3年 生方 涼大

君の背を見つけ高鳴る胸の音近くて遠い君の隣は
 群馬県立利根実業高等学校 3年 武井 潔羽

空見上げひらひら舞い降り降る初雪かな鼻に雪つく冬のはじまり
 群馬県立利根実業高等学校 3年 橋詰 王子郎

冬の候今年も氷柱が輝く頃するどい先が男のロマン
 群馬県立利根実業高等学校 3年 橋詰 王子郎

コロナ禍で生活変わりなれてない徐々になれようコロナ生活
 群馬県立利根実業高等学校 3年 川上 竜征

寒い夜ふと見上げると空いっぱい星の光に心安らぐ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 笠原 希

ふと痛む指にひび入る血洗い終わる頃には滲み出す紅
 群馬県立利根実業高等学校 3年 中澤 堅

帰路につく寒空の下田舎道イヤホンからは「目抜き通り」
 群馬県立利根実業高等学校 3年 千明 芽生

まだ慣れぬ冬の寒さに皆こごえ十四本の足絡まる
 群馬県立利根実業高等学校 3年 横坂 萌

枯れ葉道ため息大きく息白く受験の前の足どり重く
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大津 俊介

年月の経つ早さに驚く私この前までは夏だったのに
 群馬県立利根実業高等学校 3年 坂口 理英

白い息マスクのせいで出てこれず外への旅はいつになるかな
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 玲菜

わたしたち大人になるため一歩ずつ失敗しながら成功しながら
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小林 玲菜

毎日ねたくさんあるよつらいこと趣味の時間が心をいやす
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 樹里

窓の外身振いをする猫の影箱の上に付く足あと
 群馬県立利根実業高等学校 3年 松井 すみれ

数ヶ月残り少ない登校日卒業までに思い出作り
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小野 日花里

外でると感じるにおい冬が来た心やすらぐ風の香り
 群馬県立利根実業高等学校 3年 佐々木 聖

風ふいて夜空の月がかがやいた明日はきつと晴れるだろう
 群馬県立利根実業高等学校 3年 佐々木 聖

夕暮れが君のほっぺを染めあげた私のほっぺも同じなのかな
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮澤 亜弥

君と僕夕暮れ帰りつないだ手丁度いいよねこんくらの寒さ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 宮澤 亜弥

プレゼントゲーム機ほしいお手伝いした方がいいと弟に言う
 群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 涼

今になり良い子になるからほしいなとサンタに願うPSS
 群馬県立利根実業高等学校 3年 金子 涼

朝起きて庭の外を見てみれば辺り一面霜のじゅうたん
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 杏実

雪達磨君との思い出残したい浅く跡つく君とのてがた
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 杏実

冬の朝毎日見せる君のえみ私の心を晴れさす日向
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 杏実

課題忘れ怒られ落ち込み教室へ扉を開くとあの子も居残り
 群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 琉聖

庭眺め憂鬱なほど春を待ちふと吐く私の息白し
 群馬県立利根実業高等学校 3年 佐藤 琉聖

雪つもる友と遊んだ帰り道もう戻れない遠き日々
 群馬県立利根実業高等学校 3年 竹之内 愛喜

キラキラと光る氷柱を自慢気に見せる我が子の愛おしさ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 黒岩 令

寒い朝布団が私離さない目覚まし止めてもう一眠り
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 里歩

迎え待ち木枯し吹いて震える早く風呂で温まりたい
 群馬県立利根実業高等学校 3年 高橋 里歩

ストーブで赤くほてった胸の赤さは隠しきれぬと
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星 亜矢寧

昨年は想いを乗せた北風に今年はなぜか温かし
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星 亜矢寧

ハルジオン庭に咲いたら思い出す日なたのような君の笑顔を
 群馬県立利根実業高等学校 3年 角田 紗弥
 好きな子に買ってもらった飲み物を大事に強く両手でにぎる
 群馬県立利根実業高等学校 3年 今井 凛
 黒毛牛甘くておいしい最高だ牛のなかでは最高ランク
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田中 伯斗
 高校で吹奏楽に入ったらフルト楽しく毎晩吹く
 群馬県立利根実業高等学校 3年 新妻 飛鶴
 学校のドラムをたたきお家では電子ドラムをたたいて練習
 群馬県立利根実業高等学校 3年 新妻 飛鶴
 息白き満天の星ながめては君との時間かみしめる
 群馬県立利根実業高等学校 3年 富岡 琴羽
 何かいる暗闇の中目が光る間とわてみたらかすかに声が
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 香織
 コロナ禍で会えない人とオンラインパソコン向い手を振る私
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田村 香織
 山を抜け紅葉色に染まりゆくぼつんとひとつ見立つ色あり
 群馬県立利根実業高等学校 3年 藤井 裕子
 髪の毛がたくさんぬけてハゲそうだきつと自分はもう若くない
 群馬県立利根実業高等学校 3年 戸丸 ひなの
 そば打ちの帰り道にて空見上げ満天の星寒さふきとぶ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 木樽 美奈
 凧や私の身をも削り取り吹くな吹くなと思うこの頃
 群馬県立利根実業高等学校 3年 木樽 美奈
 六年間泣き笑いあつてきたけれど今度ばかりは違う道
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大竹 葉津己
 一日の疲れを全部流がしたら上がるころには老婆の手
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大竹 葉津己
 手をつなぎ見上げては空の上瞳の中にはきれいな夜空
 群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 穂乃香
 六人で一緒にのぞくはなべの中笑って食べるは私の家族
 群馬県立利根実業高等学校 3年 山崎 穂乃香
 雪道を心配している母の声毎朝兄に気をつけてねと
 群馬県立利根実業高等学校 3年 菅沼 美里
 朝起きて時間ないのに寒すぎて布団をかぶり二度寝した
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大場 彩乃

雪が降り小さい足跡残っている何かと思えば私の飼ひ猫
 群馬県立利根実業高等学校 3年 大場 彩乃
 圃場行き炎天下の中収穫頭に浮かぶ鬼の形相
 群馬県立利根実業高等学校 3年 鶴淵 秀斗
 三年が束の間に過ぎ去って行く近づいている卒業の時
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小泉 結乃
 ありがとう家族に感謝伝えたい三年間の気持ちに胸に
 群馬県立利根実業高等学校 3年 小泉 結乃
 畑や道路庭一面に広がる霜寒さを感じるこの頃に
 群馬県立利根実業高等学校 3年 田川 愛果
 息白し外に出ゆるはこぼみつつ歩いて感じこの季節かな
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 瀬菜
 ちらちらと降るもの見ると思い出すあの日帰ったあなたの姿
 群馬県立利根実業高等学校 3年 星野 瀬菜
 風邪引いた隣に居るのはお母さんいつか隣が想うあの人
 群馬県立利根実業高等学校 3年 桑原 友津
 初デート家に招待映画みる見つけてみたらふと合う視線
 群馬県立利根実業高等学校 3年 桑原 友津
 暗闇を一人さびしく帰る道温めるのはお腹の懐炉
 群馬県立利根実業高等学校 3年 狩野 凛々香
 寒い冬肌こいしくなるけれどこたつで寝るとあたたかいよね
 群馬県立利根実業高等学校 3年 新井 菜月
 白い息吐きながら行く学校へ着けば会えるね笑顔の君に
 群馬県立利根実業高等学校 3年 新井 菜月
 一クラスたった二人の藤原ふじわらああの静けさも今は懐かしい
 群馬県立利根実業高等学校 3年 雲越 志歩
 友達と手と手を合わせ寒さ耐え長い道のり帰る毎日
 群馬県立利根実業高等学校 3年 木樽 香奈
 何しよう天上に向かい問いかけるそんな時間が幸せなのだ
 群馬県立利根実業高等学校 3年 矢野 美咲
 窓をあけカーテンなびくその先に散りゆく葉っぱ秋を教える
 群馬県立利根実業高等学校 3年 矢野 美咲
 感動も話もせずに駅で降り学生靴で初雪を踏む
 群馬県立前橋高等学校 1年 田村 鴻之介
 あかもみじ山を彩り着飾つてみる人の心に訪ね行く
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 津久井 春香

紅葉に光がさしてキラキラと輝く姿まさに女子
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 瑞季
 望まないことが起こると政治家は見ざる・聞かざる・言わざるだ
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 森 美貴
 夏の夜の見上げた空に満天の星が煌めく露天風呂
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤掛 彩華
 紅葉の映える赤色点々と冷えた空気に暖かさあり
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤掛 彩華
 日光の江戸村初めて行きました周りはみんな年下ばかり
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 日菜梨
 日光に紅葉照らされ感動し人の心は今も変わらず
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 志音
 一面に真っ赤に染まる紅葉さえ君を想ってはかなく消える
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 青山 実央
 夕暮れに元気にはしゃぐ子どもたち黒い影はやがて消えゆく
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 青山 実央
 東照宮照らされ映える紅葉に舞い散る紅葉行方はどこか
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 伊藤 由唯
 日光の紅葉向けてさす太陽ほっこりした心も染まる
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 梅田 菜々子
 奥山を駆ける足音燃ゆる坂私を追い越すつづれの音
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 愛子
 金色に進む秋風に誘われて買って帰る秋色カステラ
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 高瀬 まゆ
 時空越え感銘受けた江戸の村秋晴れの下で三色だんご
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 丸山 悠
 胸を張る赤く染まったもみじたち建造物にも負けず輝く
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 初菜
 思いはせる古典の世界の住民もこい見て息をついてたでしようか
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 初菜
 赤く光る駅のホームの自販機ボタン押し心満たされる
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗本 未来
 澄み渡る青空の下鯉泳ぎ水面に映る紅く染まる葉
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗本 未来
 温泉街G.O.T.O.で行った母が言う「なぜまだお金が振りこまれない」
 群馬県立桐生女子高等学校 2年 加藤 星奈

道中の側で散りゆく紅は故郷を思ふ心の様かな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 加藤 星奈

日の光秋の紅葉七色に輝き続く豪華絢爛

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大澤 羽咲

秋晴れにお猿三匹眠り猫しよばいは禁句リトルでキュート

群馬県立桐生女子高等学校 2年 今泉 那月

散策中紅葉見つけ写真とるブレブレ写真に顔は真つ青

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 美伶

絵付けしただるまと共に持ち帰る日光の紅葉机の上に

群馬県立桐生女子高等学校 2年 梅澤 幸来

錦鯉木漏れ日に照り悠々と紅葉の海をどこまでも往く

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那

班員と買ったおみくじなぜだろうみんな大吉私だけ凶

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 仁那

紅葉の季節に行った江戸の町華美さ劣らん花魁道中

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川原 玫瑰海

二荒山良縁の地で大吉だ待ち人まだかときみを探す

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川原 玫瑰海

空見上げ黄金色の権力と砂利道通ればセーラー服

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小林 緑

ばあちゃん課題の合間五分だけお茶はうまいが時間はまずい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 西巻 美咲

ゆば料理栗ご飯しか食べられず十分後には片手にアイス

群馬県立桐生女子高等学校 2年 西巻 美咲

風が吹きいともたやすく落ちる紅水面をすきなく染めあげてゆく

群馬県立桐生女子高等学校 2年 村岡 美桜

あざやかな三色団子みな選ぶ私みたらし食欲とつた

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山田 ころこ

紅葉の隙間から指す日の光もみじの紅が光り輝く

群馬県立桐生女子高等学校 2年 松本 知佳

青空に赤色映える紅葉の木スマホを向けてインスタ投稿

群馬県立桐生女子高等学校 2年 松本 知佳

おみくじの学問の欄努力せよがんばりますよまた明日から

群馬県立桐生女子高等学校 2年 竹田 知紗

日光もピリの県だとなめてたがその魅力度にまんまとはまる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小野 瑠亜

紅葉に包まれながら空仰ぐ今も昔も変わらぬ気色

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真里奈

おみくじを大吉目指し引いてみるやっぱりまずはずはインスタ映えだ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真里奈

ひらひらと舞い落ちてゆくもみじの葉思い出されるあの恋心

群馬県立桐生女子高等学校 2年 蜂須 麻耶

楓の葉日に染められて紅葉に私の頬も真赤になりて

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金子 乃彩

紅葉に映えるセーラー桐女生手にはスマホとアイスクリーム

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岩井田ひなた

来年の運勢願いみくじ引く手の中大吉飛び跳ねる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 古沢 実子

受験生机に向かう深夜2時母の作ったココアがしみる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川口 七海

君と見る真つ赤に染まる紅葉の葉私の頬に移ったのかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川口 七海

恋みくじ大吉ではしゃぐ友達につられて私も笑顔あふれる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川口 七海

江戸村刀にちよんまげかつこい食べ物たくさん花より団子

群馬県立桐生女子高等学校 2年 天笠 空海

音立てず一步一步と慎重に足は忍ばせ心は踊る

群馬県立桐生女子高等学校 2年 内田 楓

紅葉狩り秋色染まるいろは坂百人一首を思い浮かべる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 上岡 紗奈

輪王寺良い縁求めて参ったが僅かな望みに期待してみる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 上岡 紗奈

雪の道手からこぼれる白い息不意に手取られ顔は赤面

群馬県立桐生女子高等学校 2年 上岡 紗奈

本正月絶対合格頭に巻く祖母の甘酒心に染みる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 上岡 紗奈

金色の東照宮に続いてくまっかに広がるもみじの道

群馬県立桐生女子高等学校 2年 松沢 望羽

あなたならきつと笑ってくれたでしょう紅葉の下で見上げる青空

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 咲樹

静まったベンかけぬける教室をきりさくような私の腹の音

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 那奈

幕下ろす静かな校舎背をむけてセーラーのえり整え進む

群馬県立桐生女子高等学校 2年 青木 那奈

誘われる一番風呂の良いにおい一度でいいから飲んでみたい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 天笠 日菜子

紅葉と土産片手にわらびパフェ心もお腹も超満腹

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 にと

家族からお土産のまれしよがない高級カステラ買った

群馬県立桐生女子高等学校 2年 池森 夏希

下を向く私の視線が誘われ瞳の色は真つ赤に染まる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大澤 由美

日中地面にうつる友の影飛んでく木の葉秋の訪れ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小澤 風彩

コロナより描いたものが夢で消え日帰り旅行GOTO栃木

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 愛莉

空見上げ秘めた思いが込み上げる「君は私の太陽でした」

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 愛莉

日光の紅葉に映える小さいぶどうの白いちわまるもつと映えるかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川崎 穂菜美

江戸の村マスク装備のお侍違和感の中に感じる時代

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川俣 咲貴

勢いではしゃいで入る露天風呂戻る途中に冷める体

群馬県立桐生女子高等学校 2年 川俣 咲貴

忙しい朝に限って君が来る見つめないでもふもふしちゃう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 國枝 美玖

父の声風呂場で響くさげび声自動スイッチ絶対おした

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小和瀬 楓

秋晴れに映えるセーラー写真をとって思い出作り

群馬県立桐生女子高等学校 2年 成宮 未紗

じやりじやりと音をならして歩きます彩づくもみじに晴れた空

群馬県立桐生女子高等学校 2年 西 那菜子

縁結び出来ると聞いて走り出す走った先には八割女子校

群馬県立桐生女子高等学校 2年 長谷川 桃香

日光で思い出写真映る時は目・耳・口を絶対かくす

群馬県立桐生女子高等学校 2年 馬場 泉

三猿の下から聞こえるはしゃぎ声皆で成り切る恒例行事

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 望夢

東照宮登りつめたその先で声では歓喜足はひめい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 広瀬 菜緒

神社よりおみくじよりも重要な胃袋満たすカフエ探しかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 七海

食欲に神社に芸術紅葉狩り色んな秋を感じた日光

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 ゆら

出たくない勉強再開したくない長風呂続くテスト週間

群馬県立桐生女子高等学校 2年 宗村 陽菜

東照宮視線あびてポーズするみんな隠す目口鼻

群馬県立桐生女子高等学校 2年 宗村 陽菜

眠り猫東照宮の見どころで期待して入ると「あれっ、小さい」

群馬県立桐生女子高等学校 2年 宗村 陽菜

日光で揺れるセーラー鳴るローファー一番はしゃぐセブンティーン

群馬県立桐生女子高等学校 2年 柳原 心響

水筒とカップラーメン持参して数える三分冬の教室

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山口 凜

念願の江戸の町中息ならい「この印籠が目に入らぬか」

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山口 凜

東照宮階段多くて筋肉痛結構ガチった女の旅程

群馬県立桐生女子高等学校 2年 横田 日和

鮮やかに日光彩る紅葉とカメラ越しのセカンドJK

群馬県立桐生女子高等学校 2年 吉田 葵

バスボムを入れる度に彩づいた今日の頑張り明日の希望

群馬県立桐生女子高等学校 2年 和田 友菜

修学旅行近場ですませた日光で新たな発見友との絆

群馬県立桐生女子高等学校 2年 和田 友菜

際会しゆく先変わる旅行にも向かう先の魂消る再会や

群馬県立桐生女子高等学校 2年 秋山 七海

もみじからはみだす日光秋の色下から見上げて浴びる木漏れ日

群馬県立桐生女子高等学校 2年 浅野 妃南

からころも山々がきし秋の日に誰思ふべく待つ日暮かな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 美裕

日が当たり眠気の勝るバス道中一睡も許さぬバスガイドの声

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 悠月

君映る瞬をカメラにこころみる手を振る君にこようしけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 新井 悠月

東照宮階段ばかり息切れるみんなそろって足ブルブル

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石関 華音

秋紅葉夕陽照らされ輝きを放つが今宵散りゆく運命

群馬県立桐生女子高等学校 2年 市川 美輝

野山より韓紅に染みければ優く散るを夢のごとし

群馬県立桐生女子高等学校 2年 内田 磨佳

日光の景色をいろどる紅葉が私の心も色づけていく

群馬県立桐生女子高等学校 2年 大川 玲伸

同じ人二度会ったなら運命だあの碧眼が私を見つめる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 織間 里桜

パシャパシャと写真を撮ったり歩いたり東照宮にあきぬ旅路よ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 後藤 映月

二荒山友と引きけり糸みくじ運は大吉良縁きたれ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 更科 友深

舞い落ちる紅葉追いかけて手を伸ばすふとよみがえる小さい手足

群馬県立桐生女子高等学校 2年 河内 華

こころごころ休み万歳コロナ休みよ学校始まりあやばい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金 語華

たまぼこの赤く染まりて道さまる日に照る紅葉いと恋しきや

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金 語華

ひさかたの杉並木から差す光化学で習ったチンダル現象

群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗原 由衣

美しい花魁姿の足元は今季流行りの厚底ブーツ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 栗原 由衣

バスの中みんな寝てるの静かすぎゆつたりできた一人二席

群馬県立桐生女子高等学校 2年 黒澤 奈々花

ぜひ見たし家康の墓一周だ上りがつらい長い階段

群馬県立桐生女子高等学校 2年 黒澤 奈々花

紅葉の葉片目隠して友見つめ心の奥も染まりだす

群馬県立桐生女子高等学校 2年 須江 暖

快晴の空のキャンバス染まりつつ紅葉一色長い坂道

群馬県立桐生女子高等学校 2年 清水 美空

秋風に散りゆく紅葉日光傘さす君に胸が高鳴る

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高橋 愛美

いつ使うん？サインコサインタンジエント不毛な疑問が私を悩ます

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高橋 愛美

君のこと考えながらおみくじを開くと凶が不安を感じ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 関口 侑花

紅葉の色鮮やかな赤黄色秋を感じる飽きない気色

群馬県立桐生女子高等学校 2年 関口 侑花

秋風で赤く染まる指先を空にかざせばもみじの葉

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 萌

バスにのり個々でながめる窓の外秋色で染まる景色と心

群馬県立桐生女子高等学校 2年 徳満 華

日光に照らされ行つた東照宮杉のすんでる美味しい空気

群馬県立桐生女子高等学校 2年 野本 明輝

何度目だ団子を見ては聞いてくるおさむらいどのに美味でござる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋本 光

麗らかな日差しが照らす空際は景色と共に模様移ろう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 畑田 海友

現実をつきつめられた恋みくじいつかと願う心ありけり

群馬県立桐生女子高等学校 2年 林 風花

さむらいに教えてもらい感謝したい出てきた言葉はありがとうでござる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 樋口 茜羽

目に映る三つに並ぶ三色の丸並ぶ私は花より団子

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

秋の風染まる紅葉火照る頬目に差し込んだ無数の光

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

出発で高まる鼓動走るバスせまる睡魔としまる目蓋

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

祈る手と願いを込めた百円玉一番に見る待ち人の欄

群馬県立桐生女子高等学校 2年 深澤 風夏子

寝息たて無気力顔で旅行者に「寝るとは何か？」この故を問う

群馬県立桐生女子高等学校 2年 福田 はな

花魁の豪華な着物華々と紅葉と紛う美しきかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤生 乃愛

もみじの葉赤や黄色に色づいて色とりどり美しきかな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤生 乃愛

紅葉で赤や黄色に染む季節季節の変わり冬のおい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 藤生 乃愛

赤緑景色の中で変わりゆく青春は去り勉強一色

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 真澄

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

初めての花魁道中目の前にスマホ握って真面目に撮影

群馬県立桐生女子高等学校 2年 八木 祐希南

橙のお菓子よこせと響く夜しばらくぶりの満月はろうりん

群馬県立桐生女子高等学校 2年 山中 祈

秋晴れの小道に色づく落葉たちふみ歩くことなお夢のごとし

群馬県立桐生女子高等学校 2年 安達 楓

見上げれば澄み渡る青夕日色瞬きすらも惜しい秋の日

群馬県立桐生女子高等学校 2年 安達 楓

ひらひらと舞い落ちていく紅葉の葉追つても追つても風と去りゆく

群馬県立桐生女子高等学校 2年 天沼 瑚晴

あと三分集合時間に間に合えとリュックでゆるおそらいチャーム

群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 瑚子

赤黄色とりどりに染まる葉を眺めて思う京の町

群馬県立桐生女子高等学校 2年 飯塚 琴音

寒空の風にさらされ冷えた手に優しく触れるがやがてなくなる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 石川 陽葉

紅葉で街中赤で染まってる私は思わずスマホでパシヤリ

群馬県立桐生女子高等学校 2年 岩崎 莉梨花

大好きな森のかほりにつまれて思い出される父のお風呂

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小倉 美咲

青い空紅葉しげる秋の日に昔の人と同じ気になる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 金井 瑠那

そびえ立ち見守り続け数百年故人が生きた過去を感じる

群馬県立桐生女子高等学校 2年 木村 日菜子

秋晴れに映える紅葉セーラー服写る写真に笑顔たくさん

群馬県立桐生女子高等学校 2年 小堀 叶愛

友達と旅行へ行くバスの中少し寂しいコロナ時期

群馬県立桐生女子高等学校 2年 塩谷 あいら

祖母の家温度設定ないお風呂我が家とあやまり足大やけど

群馬県立桐生女子高等学校 2年 白木 優衣

食欲の秋しか勝たんさつまいもご飯食べたい栗も譲らん

群馬県立桐生女子高等学校 2年 瀬川 碧衣

秋の暮空が紅葉もみじ色あなたのほっぺももみじ色

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高川 来望

目の前に広がる紅葉青い空コントラストが心を癒す

群馬県立桐生女子高等学校 2年 高畑 柚香

二荒山ひいたおみくじ中吉だ私に待つのは冬の出会い

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 沙弥

江戸村で小腹がすいて食べたのは大きな焼鳥かわいげないな

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田中 沙弥

日に写る紅の山と金の装飾肌に伝わる徳川の歴史

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田辺 真菜

からくりで足がフラフラ酔っぱらいまだまだ足りない忍者修行

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田辺 真菜

下げないで母に言われてもおお下げる年の差感じる温度設定

群馬県立桐生女子高等学校 2年 田村 ひろ乃

初日光紅葉の中で舞うJK景色と同様みな美しい

群馬県立桐生女子高等学校 2年 橋爪 里於

空一面広がる紅葉の間からまぶしく輝く秋晴れの光

群馬県立桐生女子高等学校 2年 蛭間 萌愛

変わりゆく季節の下で恋に落ち私と君は変わらぬまま

群馬県立桐生女子高等学校 2年 星野 結

「キャッキヤツ」とどちらが猿かわからない3匹の猿はしゃぐJK

群馬県立桐生女子高等学校 2年 前田 由羽

晴れた日の東照宮に様々な制服を着た小中学生

群馬県立桐生女子高等学校 2年 宮下 輝華

月曜日一限目から険しいふと前見ればすでに五限目

群馬県立桐生女子高等学校 2年 毛呂 妃那子

早朝に電車で座れて前見ればイケメンがいた今日も頑張ろう

群馬県立桐生女子高等学校 2年 毛呂 妃那子

晴れの下江戸村で見た子ども馬一時間経てば大きなポニー

群馬県立桐生女子高等学校 2年 ラミハ ホサイン

あの夏を思い出すのは碧落に寒風頬へ銀杏の葉を打つ

群馬県前橋市立前橋高等学校 1年 井上 璃乃

夜店の灯金魚ばかりを照らし出し滴る袖に君は気付かず

群馬県前橋市立前橋高等学校 2年 秋本 大青

秋高く重くしづく金魚鉢香る雫は夏の夜のま

群馬県前橋市立前橋高等学校 2年 秋本 大青

ときわぎは冷たい冬も変わらずに古老を眺めたただただ萎む

群馬県前橋市立前橋高等学校 2年 秋本 大青

冬の虹走り出せずにくく消えて透ける空にただ手をのばす

群馬県前橋市立前橋高等学校 2年 秋本 大青

母に送る手作りマフラー今年こそ感謝の想い糸糸に込めて

高崎商科大学附属高等学校 1年 小川 真美

盆祭り酒席から太い声今年も来たぞ「酒飲みまくれ」

高崎商科大学附属高等学校 1年 小川 真美

深夜2時ノートを刻む丸たちは級化構造示すでしょう

高崎商科大学附属高等学校 2年 尾関 愛未

働いた証を肩に乗せながら猫のようにこたつを求む

高崎商科大学附属高等学校 2年 小坂橋 彩花

静かな部屋幾千億の星の様に冬の記憶よ降りつもる雪

塩尻市立塩尻東小学校 6年 林 和希

入道雲ソフトクリームみたいでねだれも汗もでてきちゃいそう

塩尻市立塩尻東小学校 6年 桑原 百花

花かんむり季節の花で作ったのが私一番のおきにいりなの

塩尻市立塩尻東小学校 5年 水間 育実

せみさんがなくじき後りもう秋だあつさをわすれもようがえ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 上野 なほ

シンシンと雪がふるの中しん年会はつもうででも雪がふりゆく

塩尻市立塩尻東小学校 5年 原田 想史

ふきのとう春が来たぞとおしらせだでもまだすこし冬のけしきだ

塩尻市立塩尻東小学校 5年 原田 想史

友達と行くあてもなく歩いてくこれから僕らどこへ行くか

塩尻市立塩尻東小学校 6年 百瀬 美桜

夏まつりすぐとんでるぼたるだよすぐきれいだかがやいている

塩尻市立塩尻東小学校 4年 小松 桃愛

真夏の夜夏の温度でじんじんとねてるところを苦めたんだ

塩尻市立塩尻東小学校 4年 内川 蒼太

しんど七立つひまもなくガタガタとゆれてゆるるよとまらねえんだ

塩尻市立塩尻東小学校 4年 内川 蒼太

パンをもち空き地にいたらやせいの犬がきたんだから犬をねかうことにした

塩尻市立塩尻東小学校 4年 伊藤 向春

今日はねしゅくだい2つマジ最高でもおわるまでなにしようかな

塩尻市立塩尻東小学校 4年 寺岡 飛男

秋になり葉っぱの色が変わったよもうすぐ冬になるのかな

塩尻市立塩尻東小学校 4年 宮本 和果

楽しさは春夏秋冬どこにでもいつもしよについてくる

塩尻市立塩尻東小学校 5年 山本 理恵

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会 高校生以下の部・自由題作品

駄菓子屋でなつかしの菓子買ってみた一つ食べたらいいかつた
 塩尻市立塩尻中学校 1年 百瀬 遥希

セミの音もう少しで夏おわるこれから少し寒くなるな
 塩尻市立塩尻中学校 1年 大原 充

せんぶうきすずしいけれどきけんたなずつとあびると風になるよね
 塩尻市立塩尻中学校 1年 安藤 悠人

放課後にとても暗い中歩いてくししゃべりながら友達いっしょに
 塩尻市立塩尻中学校 1年 荒川 稜平

幼い子何も知らないだからこそきれいに笑う八月の朝
 塩尻市立塩尻中学校 3年 大下 愛

大会のシーズン終わり勉強の本格的なシーズン開始
 塩尻市立塩尻中学校 3年 大下 愛

秋になり少し涼しくなってきた今日も風たち強く吹いている
 塩尻市立塩尻中学校 1年 二木 健登

暑い日がだんだんすずしくなっていくとどうとうくつすりねむる日がくる
 塩尻市立塩尻中学校 2年 有田 篤生

自由人自由な人になりたいななつたらなつたでだらけよう
 塩尻市立塩尻中学校 2年 竹下 陸矢

一年があつという間に終わろうとしているけれど一日が長い
 塩尻市立塩尻中学校 1年 竹内 颯

もうすぐでデビュー戦がやってくる一位を取って次に進むぞ
 塩尻市立塩尻中学校 1年 奥平 椋太

一匹のか細い声から大合唱夜空の下で共鳴してる
 塩尻市立塩尻中学校 3年 風間 唯花

暴風で木々や建物倒れても決して負けない私の心
 塩尻市立塩尻中学校 3年 馬場 友希

マスク生活必要不可欠人気物マスクがすごく自まん気に
 塩尻市立塩尻中学校 1年 佐藤 宇純

ビュービューと強風吹きあれ注意報とても憂鬱巨大台風
 塩尻市立塩尻中学校 2年 嶋崎 涼介

風呂入り湯舟につかる最高だ疲れが全部なくなりそうだ
 塩尻市立塩尻中学校 2年 鍋島 柊司

れいぞうこあけてみたらなし登見のどがかわいてたからおいしいな
 塩尻市立塩尻中学校 1年 荻上 凌成

真よなかに空飛ぶさけがやってくるザクザクの実の中たまごを生んだ
 光市立光井小学校 4年 横道 玄

ふでばこにはピンクの色で一、二、三数字見るたび元気になるの
 下松市立中村小学校 3年 久保 美瑠姫

おとうさんとときどきだけやさしいねなんでおこるのおしえてほしい
 下松市立中村小学校 3年 古家 あつき

親友はぜったいけんかはしないんだてつぼうしたり絵を書いたりする
 下松市立中村小学校 4年 矢次 美羽

楽しい日気づけば時間がたっていた楽しい気持ちは変わらなかった
 下松市立中村小学校 4年 吉田 光汰

おにごっこみんなとしているひる休みに砂場でこけたらすなの音した
 下松市立中村小学校 3年 相本 羽華

たんじょう日たんじょうケーキにろうそくを九本立てておいしく食べた
 下松市立中村小学校 3年 あさ本心な

ひらひらと落ち葉をふく風さむくつて朝目がさめるめざましになる
 下松市立中村小学校 3年 玉井 結愛

教室はいつでもどこでも大さわぎとくに先生いない教室
 光市立上島田小学校 6年 平島 裕翔

ぬいぐるみ見るといつもでも追(お)いかける長い毛をもつウサギの「そら」は
 光市立上島田小学校 6年 河内 智裕

※ 一般の部の作品は、高校生以下の部とともに
 令和3年3月以降にみなかみ町ホームページ内
 に掲載予定。

第四回若山牧水みなかみ紀行短歌大会
高校生以下の部作品集

令和3年3月7日発行

編集／発行 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

〒379-1305

群馬県利根郡みなかみ町後閑321-1

みなかみ町教育委員会 生涯学習課内

電話0278(25)5025

令和2年度若山牧水みなかみ紀行短歌大会補助事業

第4回若山牧水みなかみ紀行短歌大会

開催日 令和3年(2021)3月7日(日)

会場 みなかみ町カルチャーセンター

群馬県利根郡みなかみ町上牧 1735

主催 若山牧水みなかみ紀行短歌大会実行委員会

共催 みなかみ町牧水会

後援 みなかみ町・みなかみ町教育委員会・おちあいしんぶんマイタウン
たにがわ・沼田エフエム放送株式会社・三成社株式会社
(一財)三国路与謝野晶子紀行文学館

